

まちづくり市民意向調査結果及び 満足度分析結果

平成26年5月

登米市企画部企画政策課

目 次

1 調査概要	(頁)
(1) 調査目的	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収状況	2
2 調査結果	(頁)
【問1】生活環境の満足度・重要度	3
(1) 満足度・重要度の順位	5
●満足度の高かった上位5項目	5
●重要度が高かった上位5項目	5
●満足度の点数の上がり幅が大きかった上位5項目	5
●満足度の点数の下がり幅が大きかった上位5項目	5
(2) 満足度の分析	6
【問2】登米市の暮らしやすさ	13
【問3】定住意向	14
【問4】定住したい理由	15
【問5】転居したい理由	16
【問6】登米市の将来のイメージ	17
【問7】登米市の強み	18
【問8】登米市の弱み	19
【問9】地域発展に向けた重点施策	20
【問10】都市整備や市街地開発の方向	21
【問11】農地のあり方	22
【問12】山林のあり方	23
【問13】住宅地のあり方	24
【問14】商業地のあり方	25
【問15】工業地のあり方	26
【問16】性別	27
【問17】年代	28
【問18】居住地	29
【問19】職業	30
【問20】通勤・通学先	31
【問21】居住経験	32

1 調査概要

(1) 調査目的

生活環境の満足度や施策の重要度、市の目指すべき方向性などについて市民の意識を把握するとともに、登米市総合計画に掲げたまちづくりの施策に係る進捗状況の管理に役立てる。また、平成28年度を始期とし、平成37年度を目標とする第二次総合計画の策定に市民の意向を反映させることを目的とする。

(2) 調査内容

● 日ごろの生活環境について	農地のあり方 問11
生活環境の満足度・重要度 .. 問1 (49項目)	山林のあり方 問12
登米市の暮らしやすさ 問2	住宅地のあり方 問13
● 今後の居住意向について	商業地のあり方 問14
定住意向 問3	工業地のあり方 問15
定住したい理由 問4	● 回答者の属性
転居したい理由 問5	性別 問16
● これからのまちづくりについて	年代 問17
登米市の将来イメージ 問6	居住地 問18
登米市の強み 問7	職業 問19
登米市の弱み 問8	通勤・通学先 問20
● 将来の登米市の土地利用について	居住経験 問21
地域発展に向けた重点施策 問9	● まちづくりに関する自由意見
都市整備や市街地開発の方向 .. 問10	自由意見 問22

(3) 調査方法

調査方法	行政区長による配付及び回収
調査対象	18歳以上の登米市民5,000人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査期間	平成26年1月10日から1月31日まで

(4) 回収状況

回収率は64.4%で、前回調査より8.0ポイントの減少となりました。

性別の回収率は、男性が58.6%、女性が66.4%で、男女とも前回調査を下回りました。

年代別では、60歳代の回収率が最も高く、78.9%となりました。

居住地別では、津山町で前回調査から14.0ポイント増加し、82.4%の回収率となりました。

【性別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成23年)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	3,220	64.4	5,000	3,620	72.4	▲ 8.0
男性	2,420	1,419	58.6	2,369	1,564	66.0	▲ 7.4
女性	2,580	1,712	66.4	2,631	1,916	72.8	▲ 6.5
無回答	—	89	—	—	140	—	—

【年代別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成23年)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	3,220	64.4	5,000	3,620	72.4	▲ 8.0
10歳代	110	49	44.5	115	51	44.3	0.2
20歳代	557	259	46.5	557	310	55.7	▲ 9.2
30歳代	692	354	51.2	645	409	63.4	▲ 12.3
40歳代	628	371	59.1	613	428	69.8	▲ 10.7
50歳代	874	588	67.3	941	769	81.7	▲ 14.4
60歳代	911	719	78.9	822	661	80.4	▲ 1.5
70歳代	675	487	72.1	731	537	73.5	▲ 1.3
80歳以上	553	314	56.8	576	326	56.6	0.2
無回答	—	79	—	—	129	—	—

【居住地別】

(単位:票、%)

	今回調査			前回(平成23年)調査			比較
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	回収率
全体	5,000	3,220	64.4	5,000	3,620	72.4	▲ 8.0
迫町	1,262	679	53.8	1,233	813	65.9	▲ 12.1
登米町	301	228	75.7	316	238	75.3	0.4
東和町	428	340	79.4	443	344	77.7	1.7
中田町	945	553	58.5	929	643	69.2	▲ 10.7
豊里町	405	222	54.8	397	278	70.0	▲ 15.2
米山町	587	351	59.8	605	397	65.6	▲ 5.8
石越町	327	240	73.4	329	255	77.5	▲ 4.1
南方町	524	337	64.3	523	378	72.3	▲ 8.0
津山町	221	182	82.4	225	154	68.4	14.0
無回答	—	88	—	—	120	—	—

2 調査結果

問1 生活環境の満足度・重要度

全体としては、前回と比較して満足度は0.06ポイント、重要度は0.01ポイントそれぞれ増加した。

満足度は、「23消防・救急救助体制の充実」の2.81が最も高く、これに「15保健・検診サービスの充実」が2.78、「3上水道の推進」「6ゴミ減量化・資源リサイクルの推進」「26交通安全の推進」及び「36小・中学校施設の整備」の2.75が続いている。満足度が最も低かったのは「13雇用対策・起業支援」及び「16医療機関の充実」の2.15で、続いて「17救急医療体制の充実」の2.18、「14観光の振興」の2.19となっている。

前回の調査と比べると、「24風水害、地震などの自然災害対策」及び「36小・中学校施設の整備」が0.16ポイント増加している。一方で、「6ゴミ減量化・資源リサイクルの推進」「14観光の振興」が0.05ポイント減少している。

重要度は、「17救急医療体制の充実」の3.82が最も高く、これに「16医療機関の充実」の3.77が続いており、『安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり』分野に係る指標が上位を占めている。重要度が最も低かったのは、「41文化・芸術活動の推進」で2.76で、続いて「40地域間交流や国際交流の推進」の2.80、「45男女共同参画社会の推進」の2.87と『豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり』分野に係る指標が占めた。

前回の調査と比べると、「13雇用対策・企業支援」が0.50ポイント増加し、「14観光の振興」が0.57ポイント減少している。

※問1については、下の計算式によって、生活環境指標ごとに回答を点数化(加重平均)する。その結果、点数が2.50より高ければ高いほど満足(重要)、2.50より低ければ低いほど、不満(重要ではない)という意見が多いと分析・整理される。

$$\text{点数} = \frac{\text{「満足(重要)」(票数)} \times 4 + \text{「ある程度満足(やや重要)」(票数)} \times 3 + \text{「あまり満足(重要)でない」(票数)} \times 2 + \text{「満足(重要)でない」(票数)} \times 1}{\text{「満足(重要) ~ 満足(重要)でない」回答総数(票数)} \quad \text{※無回答、無効を除く}$$

基本方向	事 項	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
う る 人 お と い の 自 然 あ る が 共 生 ま ち す く り	1 自然環境の保全	2.69	3.24	2.66	3.23	0.03	0.01
	2 自然環境の活用(又は創造)	2.47	3.12	2.44	3.09	0.03	0.03
	3 上水道の推進	<u>2.75</u>	<u>3.67</u>	2.61	<u>3.70</u>	0.14	▲0.03
	4 下水道の推進	2.69	3.50	2.73	3.48	▲0.04	0.02
	5 公園・緑地	2.55	3.07	2.53	3.00	0.02	0.07
	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	<u>2.75</u>	3.43	<u>2.80</u>	3.46	▲0.05	▲0.03
	7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	2.67	3.50	2.57	3.37	0.10	0.13
	8 地球温暖化対策への取り組み	2.35	3.34	2.35	3.47	0.00	▲0.13
あ 技 を 大 ま 生 地 ち か の 恵 み と 活 力 の あ る ま ち	9 農業の振興	2.41	3.28	2.33	3.38	0.08	▲0.10
	10 林業の振興	2.46	3.05	2.39	3.04	0.07	0.01
	11 商業の振興	2.25	3.18	2.19	3.22	0.06	▲0.04
	12 工業の振興	2.25	3.35	2.19	3.35	0.06	0.00
	13 雇用対策・起業支援	2.15	3.47	2.03	2.97	0.12	0.50
	14 観光の振興	2.19	2.91	2.24	3.48	▲0.05	▲0.57
ま ち を 全 く に 安 心 し て 暮 ら せ る や す ら ぎ の あ る ま ち	15 保健・検診サービスの充実	<u>2.78</u>	3.54	<u>2.78</u>	3.50	0.00	0.04
	16 医療機関の充実	2.15	<u>3.77</u>	2.07	<u>3.75</u>	0.08	0.02
	17 救急医療体制の充実	2.18	<u>3.82</u>	2.16	<u>3.78</u>	0.02	0.04
	18 社会保障の充実	2.35	3.63	2.28	3.63	0.07	0.00
	19 地域福祉の推進	2.45	3.42	2.47	3.33	▲0.02	0.09
	20 児童福祉、子育て支援の充実	2.53	3.52	2.55	3.43	▲0.02	0.09
	21 高齢者福祉の充実	2.52	3.52	2.55	3.46	▲0.03	0.06
	22 障がい者福祉の充実	2.52	3.40	2.54	3.36	▲0.02	0.04
	23 消防・救急救助体制の充実	<u>2.81</u>	3.54	<u>2.83</u>	3.58	▲0.02	▲0.04
	24 風水害、地震などの自然災害対策	2.62	3.51	2.46	3.59	0.16	▲0.08
	25 防犯対策の推進	2.56	3.46	2.50	3.42	0.06	0.04
	26 交通安全の推進	<u>2.75</u>	3.36	<u>2.78</u>	3.34	▲0.03	0.02
	27 消費生活の安定と向上	2.54	3.02	2.49	3.03	0.05	▲0.01

基本方向	事項	今回調査		前回（平成23年）調査		比較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
ちせ づる ゆと り の 快 適 に あ る 暮 ら ま	28 計画的な市街地の整備	2.36	3.10	2.28	3.09	0.08	0.01
	29 居住環境の整備	2.46	3.28	2.34	3.28	0.12	0.00
	30 良好な町並み、景観の形成	2.54	2.93	2.48	2.93	0.06	0.00
	31 道路の整備	2.52	3.30	2.38	3.31	0.14	▲0.01
	32 バスなどの公共交通機関の充実	2.39	3.14	2.34	3.11	0.05	0.03
	33 地域情報化の推進	2.55	2.94	2.45	2.97	0.10	▲0.03
ふ れ あ い の ま ち づ く り	34 幼児教育の充実	2.68	3.42	2.61	3.35	0.07	0.07
	35 小・中学校教育の充実	2.67	3.54	2.66	3.48	0.01	0.06
	36 小・中学校施設の整備	<u>2.75</u>	3.45	2.59	3.45	0.16	0.00
	37 生涯学習の充実	2.64	3.12	2.60	3.06	0.04	0.06
	38 スポーツ・レクリエーションの振興	2.70	2.90	2.69	2.83	0.01	0.07
	39 青少年の健全育成	2.64	3.11	2.57	3.19	0.07	▲0.08
	40 地域間交流や国際交流の推進	2.59	2.80	2.56	2.81	0.03	▲0.01
	41 文化・芸術活動の推進	2.68	2.76	2.59	2.76	0.09	0.00
42 文化財等の保護・継承	2.74	2.97	2.66	2.94	0.08	0.03	
し た 市 民 の 協 働 の 創 造 力 を 生 か す	43 市政への市民参加	2.50	3.10	2.42	3.07	0.08	0.03
	44 市政に関する情報提供	2.70	3.19	2.61	3.18	0.09	0.01
	45 男女共同参画社会の推進	2.62	2.87	2.56	2.85	0.06	0.02
	46 地域の自治・コミュニティ活動の推進	2.66	2.97	2.63	2.96	0.03	0.01
	47 調和と均衡ある地域の発展	2.58	2.90	2.52	2.90	0.06	0.00
	48 行財政改革の推進	2.47	3.28	2.38	3.27	0.09	0.01
	49 市政運営での連携の推進	2.52	3.23	2.40	3.27	0.12	▲0.04
基 本 方 向 別 平 均	人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	2.62	3.36	2.59	3.35	0.03	0.01
	大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	2.29	3.21	2.23	3.24	0.06	▲0.03
	安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	2.52	3.50	2.50	3.48	0.02	0.02
	便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	2.47	3.12	2.38	3.12	0.09	0.00
	豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	2.68	3.12	2.61	3.10	0.07	0.02
	市民の創造力を生かした協働のまちづくり	2.59	3.05	2.52	3.04	0.07	0.01
全平均	2.53	3.23	2.47	3.22	0.06	0.01	

※表中の下線付き数字は、点数の高い項目（上位3項目）を表している。

◆総合計画に掲げる基本方向別の満足度の目標

まちづくりの基本方向名	平成17年 調査結果	平成22年 目標	平成27年 目標	平成25年 調査結果
人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	2.59	2.87	3.15	2.62
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	2.28	2.64	3.00	2.29
安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	2.46	2.74	3.02	2.52
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	2.36	2.68	3.00	2.47
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	2.59	2.87	3.15	2.68
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	2.30	2.65	3.00	2.59

(1) 満足度・重要度の順位

●満足度の高かった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	23 消防・救急救助体制の充実 (2.81)	15 保健・検診サービスの充実 (2.78)	26 交通安全の推進 (2.75)	36 小・中学校施設の整備 (2.75)	3 上水道の推進 (2.75)
前回	23 消防・救急救助体制の充実 (2.83)	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進 (2.80)	26 交通安全の推進 (2.78)	15 保健・検診サービスの充実 (2.78)	4 下水道の推進 (2.73)

※満足度が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

●重要度が高かった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	17 救急医療体制の充実 (3.82)	16 医療機関の充実 (3.77)	3 上水道の推進 (3.67)	18 社会保障の充実 (3.63)	35 小・中学校教育の充実 (3.54)
前回	17 救急医療体制の充実 (3.78)	16 医療機関の充実 (3.75)	3 上水道の推進 (3.70)	18 社会保障の充実 (3.63)	24 風水害・地震などの自然災害対策 (3.59)

●満足度点数の上がり幅が大きかった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	36 小・中学校施設の整備 (0.16) 【前回2.59→今回2.75】	24 風水害、地震などの自然災害対策 (0.16) 【前回2.46→今回2.62】	31 道路の整備 (0.14) 【前回2.38→今回2.52】	3 上水道の推進 (0.14) 【前回2.61→今回2.75】	29 居住環境の整備 (0.12) 【前回2.34→今回2.46】
前回	18 社会保障の充実 (0.49) 【前回1.79→今回2.28】	16 医療機関の充実 (0.30) 【前回1.77→今回2.07】	17 救急医療体制の充実 (0.29) 【前回1.87→今回2.16】	21 高齢者福祉の充実 (0.25) 【前回2.30→今回2.55】	9 農業の振興 (0.25) 【前回2.08→今回2.33】

※上がり幅が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

●満足度点数の下がり幅が大きかった上位5項目

()内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進 (▲0.05) 【前回2.80→今回2.75】	14 観光の振興 (▲0.05) 【前回2.24→今回2.19】	4 下水道の推進 (▲0.04) 【前回2.73→今回2.69】	26 交通安全の推進 (▲0.03) 【前回2.78→今回2.75】	21 高齢者福祉の充実 (▲0.03) 【前回2.55→今回2.52】
前回	31 道路の整備 (▲0.12) 【前回2.50→今回2.38】	※ 24 風水害、地震などの自然災害対策 (0.01) 【前回2.45→今回2.46】	※ 42 文化財等の保護・継承 (0.03) 【前回2.63→今回2.66】	※ 40 地域間交流や国際交流の推進 (0.03) 【前回2.53→今回2.56】	※ 36 小中学校施設の整備 (0.04) 【前回2.55→今回2.59】

※下がり幅が同じ点数の順位は、小数点第3位以下の点数による。

※前回の調査では、満足度点数が下がった項目は1項目のみだったため、2位以下には「満足度点数の上がり幅が小さかった項目を掲載している。

(2) 満足度の分析

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	1 自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・自然緑地、水辺環境を保全すること ・森林の持つ環境保全などの機能の維持・増進を推進すること ・動植物を保護すること 	市民生活部(環境課)	2.69	2.66	0.03	環境教育事業を推進していることが増加につながったものと考えられる。	環境教育事業を引き続き推進する。
			産業経済部(農林政策課)				間伐等の適正な森林施業の実施や里山再生事業、市民参加の新たな森林づくり植樹祭の実施により広葉樹の造林を行うなど健全な森林の育成を図っているためと考えられる。	市有林・私有林共に、各種補助制度も活用して、適正な森林施業を実施し、健全な森林の育成を図る。
	2 自然環境の活用(又は創造)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しめる空間や施設の整備をすること ・自然を学べる場や機会をつくること 	市民生活部(環境課)	2.47	2.44	0.03	環境市民会議と協働し、環境教育事業の啓発や、環境教育リーダー育成活動の取組により、増加につながったものと考えられる。	自然を学ぶ機会の創出に取り組むこと、環境教育事業を推進すること、また、環境市民会議と連携推進を図る。
			産業経済部(農林政策課)				森林セラピー基地に認定されている登米森林公園等市内森林公園の適正な整備、管理運営を行い、多くの市民に利用されているためと考えられる。	登米森林公園へのアクセス向上を図るため、ふるさと林道登米東和線開設工事を実施する。
	3 上下道の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な水道水を供給すること ・災害に強い水道を構築し、安定供給すること ・水道料金の抑制と効率的に経営すること 	水道事業所	2.75	2.61	0.14	東日本大震災の被害に対する「復旧」から施設整備や被災対応への備えなど「復興」へ向け事業推進をしていること、水道事業の基本理念である「市民が安心して暮らせる市の責任による水道事業の確立」を目標に水道モニター、水道プースター、水道週間行事を通じて水道事業の理解を図りながら、事業経営を進めてきた成果が評価されたものと考えられる。	地震等災害時に断水等の被害を最小限に抑えるための施設整備推進や市民に水道事業を理解していただく取組を行い、水道事業の「見える化」を進め、市民との連携強化を推進する。
	4 下水道の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道事業(公共・農業集落集排・合併浄化槽)を推進すること ・し尿や浄化槽・農業集落排水汚泥を適正に処理すること 	市民生活部(衛生センター)	2.69	2.73	▲0.04	し尿収集は、地区毎に定期的に行う「計画収集」を基本として作業を行っている。 しかし、集中豪雨などでは、便槽への雨水の浸入による臨時収集依頼を多く受け付けるため、「計画収集」に「臨時収集」が加わることから、作業までの時間がかかってしまうこともあったためと考えられる。	臨時の収集依頼については、受付の時点で地区の集約化を図り、効率よく作業ができるように収集体制を確立する。
			建設部(下水道課)				大震災による下水道管の被災が甚大なものとなり、復旧工事にかなりの時間を要してしまったためと考えられる。	公共、農業集排の管渠工事の国費割当てが減少する中において、未整備地区の水洗化要望に応えるには、市町村設置型の浄化槽整備にて対応する。 マンホールの段差解消など、地域住民からの要望にできる限り迅速に対応する。
	5 公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や街路樹等を美化し、管理すること ・地域特性を生かした公園・緑地を整備すること ・市民との協働による緑化活動を推進すること 	市民生活部(子育て支援課)	2.55	2.53	0.02	児童遊園20箇所の点検を実施し、維持修繕に努めてきたためと考えられる。	遊具の老朽化に対応した計画的な更新と、利用状況に応じた施設の見直しを行っていく。
産業経済部(農村整備課)			地元行政区及び業者に管理を委託し定期的に除草作業等を行い、地域住民が利用できる環境整備を進めているためと考えられる。				地域住民のニーズを把握し、公園の美化管理や遊具施設の充実を図る。	
建設部(住宅都市整備課)			公園内施設及び樹木等の適切な管理により、利用しやすい公園を推進したことが、微増した要因と考えられる。				地域住民を対象とした公園等の利用(意向)調査を実施し、地域にあった事業施策を推進する。	
6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・4R活動(ゴミを減らす、再利用する、再資源化する、不要な包装・購入の抑制)を推進すること ・分別収集の徹底を推進すること ・生ゴミ等のたい肥化を推進すること 	市民生活部(環境課)	2.75	2.80	▲0.05	ゴミとして収集していたものの中から資源として回収可能な品目を見出し、資源回収によるゴミ減量を図っているが、東日本大震災に伴う廃棄物の大量発生及び仮置き期間の長期化に起因するものと考えられる。	資源リサイクルの取組がゴミ減量につながり、循環型社会が形成される仕組みの情報提供機会を増やすほか、資源として回収可能な品目を見出す。	
7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ収集体制を充実すること ・ゴミの不法投棄、騒音、水質など公害対策をすること 	市民生活部(環境課、クリーンセンター)	2.67	2.57	0.10	ゴミ収集については、集積所収集、ステーション収集、各戸収集を定期的に行っている。市民一人ひとりが、住みやすいと感じる生活環境づくりが図られているものと考えられる。	資源とゴミの分別意識向上のため、小学生のゴミ処理施設見学や環境教育事業を推進し、公害防止意識を醸成していく。	
8 地球温暖化対策への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー、新エネルギーに関する普及啓発を推進すること ・BDF※1などのクリーンエネルギーを活用すること 	市民生活部(環境課)	2.35	2.35	0.00	住宅用太陽光発電システム設置事業や節電、クールビズの取組によるものと考えられる。	環境教育事業を推進するとともに、環境市民会議と連携しながら地球温暖化対策への理解を広げる。また、太陽光発電など新エネルギーの普及や節電、クールビズに継続して取り組む。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	9 農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営者や農業生産組織を強化すること ・農業生産の振興や農畜産物の消費拡大を推進すること ・農産物の高付加価値化や農業による体験交流を推進すること 	産業経済部(農林政策課)	2.41	2.33	0.08	市では、食の安全・安心、高品質を戦略的に進めてきており、このことが回答者の多くを占める消費者に実感として感じてもらえたためと考えられる。	食の「安全・安心」をPRする取組について、更に強化を図る。
			産業経済部(農産園芸畜産課)				水稻経営では、経営所得安定対策や米価の堅調推移を要因とし、また畜産分野においては市場価格の高値傾向が続いていることから、農業経営が維持され、わずかではあるが満足度が向上したと考えられる。	農業情勢の変化を見極め、農家所得の向上に資する国・県補助事業の導入や市単独による補助事業の創設を図っていく。
			産業経済部(農村整備課)				特に「農業生産の振興・消費の拡大」の分野がPR活動等によって推進されていることが実感として感じられるようになった結果と考えられる。また、ほ場整備事業の推進により農地集積も推進されていることから「経営体の強化」が図られていることも反映されたものと考えられる。	農業経営体を強化しつつ、登米市ブランドを確立し消費を拡大させるとともに、6次産業を登米市産業として確立することを図る。
			産業経済部(ブランド戦略室)				環境保全型農業の取組等により、登米産の安全・安心な食材が地域内外の消費者に認知されてきていること、6次産業化の取組の拡大により農業関連産業の育成が進んでいることが認知されてきているためと考えられる。	地域資源を活用した施設整備、新規マーケットの開拓、人材育成等を支援するとともに、環境保全型農業と品質管理を高めた生産体制の取組を促進し「登米ブランド」による産地競争力の強化を図る。 安全・安心な登米市産農産物の提供について、消費者に対して目に見える形で情報を発信し、定期購入者の確保や多様化する消費者ニーズに対応できる経営体の育成を図る。 農業を基軸とした新規ビジネスに取り組む人材を育成するとともに、国の施策とも連携し、農業関連産業の拡大を図る。
10 林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の近代化と地域産材の産地形成を推進すること ・地域産材やきのこなど特用林産物の生産性向上と販路拡大を推進すること ・森林の持つ環境保全などの機能を保全すること 	産業経済部(農林政策課)	2.46	2.39	0.07	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施策を実施し、健全な森林の育成を推進していることや里山再生事業による広葉樹の育成、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を図るなど、これまでの取組が地域林業の活性化につながっていることが要因として考えられる。	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施策を実施し、健全な森林の育成を推進することや里山再生事業による広葉樹の育成等多様な森林の整備、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を図るなど、地域林業の活性化に向け、川上から川下まで様々な事業に積極的に取り組む。	
11 商業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者への支援体制を強化すること ・商店街の活性化を推進すること 	産業経済部(商工観光課)	2.25	2.19	0.06	震災後、速やかに「登米市被災事業所等再建支援事業」や「登米市中小企業災害復旧資金利子助成金」などの制度を創設し、被災した事業者の再建を支援することができたためと考えられる。 また、「空き店舗活用事業」や「ビジネスチャンス支援事業」により、事業者の持続的な支援を行っていることで、産業経済の復興・発展に向けた活動がなされていることが評価されたためと考えられる。	商業については、今後も支援体制の整備が必要である。今後の商業施策や商店街の方向性について、先進地の事例や専門家の意見等を参考にしながら対策を図る。	
12 工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・既存企業や起業者を支援すること ・企業誘致を推進すること 	産業経済部(新産業対策室)	2.25	2.19	0.06	企業誘致活動による新たな事業所等の立地が、地域経済の活性化や雇用機会の創出に繋がり、継続した取組を期待するものと考えられる。	企業誘致の推進については、企業立地セミナーへの参加や、新たな工業団地の造成により、具体的な投資環境の情報提供を行い積極的な企業誘致活動を実施する。 既存企業への支援については、融資や奨励金の交付、補助制度等を紹介するほか、市内企業ガイドブックを活用し、ビジネスマッチング開催など、受注機会の拡大による既存企業への支援を実施する。また、緊急雇用対策事業の活用により、既存企業支援のほか、起業支援に結び付けるなど、様々な工業振興策に取り組む。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	13 雇用対策・起業支援	<ul style="list-style-type: none"> 雇用機会を確保・創出すること アグリビジネス※2を推進すること 新産業の育成を支援すること 	産業経済部(新産業対策室)	2.15	2.03	0.12	<p>登米市において、有効求人倍率が前回調査(平成23年度)時の年平均0.60から、今回調査(平成25年度)時の年平均0.80と上がっていることから、緊急雇用対策事業の積極的実施や、企業誘致による新たな立地企業の雇用の確保が見込まれるなど、雇用面の環境改善を反映したのものと考えられる。</p> <p>新たな産業と雇用創出に繋げる6次産業化の推進や、アグリビジネスの創出を担う人材の育成に各種支援を行ったことが要因と考えられる。</p>	<p>雇用機会の創出を目的として、企業誘致の推進を図るため、企業立地セミナーへの参加や、継続して企業訪問等を行うなど、投資環境提案等の誘致活動を行う。</p> <p>また、既存企業への支援として、ビジネスマッチング開催による受注機会の拡大や人材確保支援事業などの企業活動支援事業の実施による雇用機会の確保など、様々な雇用対策を積極的に行う。</p> <p>起業支援を図るため、ビジネスチャンス事業を活用したアグリビジネス推進のほか、緊急雇用対策事業を活用しながら、新たな起業支援策を展開していく。</p>
	14 観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊を主とした滞在型観光を推進すること 観光案内機能を強化すること グリーン・ツーリズム※3等を推進すること 	産業経済部(商工観光課)	2.19	2.24	▲0.05	<p>観光客は東日本大震災以前の状況には戻っていない。各種イベントやPR活動を実施しているが、東北地方沿岸部の復旧・復興が進んでいないこと等によって、観光客の入込がいまだに回復しない状況であるため、ほぼ同水準の結果になったと考えられる。</p>	<p>今後も滞在型観光を推進するため市内観光素材の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、着地型観光を積極的に推進する必要がある。また、市内外への情報発信についても様々な手段を使いPRに努める。</p>
安全に安心して暮らせるやさらぎのあるまちづくり	15 保健・検診サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための健康づくりを推進すること 心の健康づくりを推進すること 母と子の健康づくりを推進すること 	市民生活部(健康推進課)	2.78	2.78	0.00	<p>検診事業に関しては、各種の受診率向上対策を実施し、目標値には達しなかったが、県内上位の受診率を確保していること、また、未検者へのコール・リコールを通し、受診機会の周知が図られたことや、母と子の健康づくりに関して、母親の育児支援に重点を置き相談や支援を実施したこと、同水準の結果となったと考えられる。</p>	<p>様々な事業実施において、地区組織と行政が、地域の健康課題、事業目的、活動のやりがいと成果の還元(アピール)等を共有し、協働で実施していく仕組みづくりに努める。</p>
	16 医療機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院、民間病院及び診療所間の連携強化を進めること 	医療局(総務課)	2.15	2.07	0.08	<p>地域医療連携室が中心となり、開業医等との連携が図られてきたことに加え、地域医療連携センターの整備によって連携室と医師会が同じ施設の中で業務を行えるようになり、連携強化が図られたことが評価されたと考えられる。</p>	<p>開業医や他医療機関との連携を強化し、切れ目のない医療提供体制の確立を図るため、お互いが信頼し合い、情報を共有できる体制づくりに努める。</p>
	17 救急医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 休日急患当番医制を充実すること 休日・夜間の24時間対応救急医療体制を充実すること 	市民生活部(健康推進課)	2.18	2.16	0.02	<p>休日当番医の情報提供について、広報・新聞だけでなくモバイルやFM等を活用したことからタイムリーな周知が可能となったこと、救急医療等に関して、三陸自動車道の整備により、石巻赤十字病院受診の時間短縮が図られたこと等から、満足度の増加につながったと考えられる。</p>	<p>休日夜間における小児科・産科診療については、広域で対応できる体制を整えていく。</p>
	18 社会保障の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国民健康保険制度や後期高齢者医療制度を適正に運用すること 国民年金制度を適正に運用すること 	市民生活部(国保年金課)	2.35	2.28	0.07	<p>平成20年度から実施された後期高齢者医療制度について、十分定着し、市民に浸透し、理解されつつあるためと考えられる。</p>	<p>医療制度の内容を理解していただくため、周知・啓発に努める。</p>
19 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体で支え合う福祉体制を整備すること 地域福祉に関わる組織・人材の育成、強化を推進すること 	市民生活部(生活福祉課)	2.45	2.47	▲0.02	<p>地域ふれあいコミュニティ事業や地域福祉等推進特別支援事業を推進してきたところであるが、地域での事業推進に関わる人が同じであったり、地域での横のつながりが広がらなかったことが、要因として考えられる。</p>	<p>登米市地域福祉計画に基づく地域福祉の推進に向けて、自助、共助、公助の仕組みを全ての人が理解し、地域の生活課題を自らが気づく環境づくりに努める。</p>	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)	
安全に安心して暮らせるやさしさのあるまちづくり	20	児童福祉、子育て支援の充実	・保育を充実強化すること ・放課後児童対策を充実すること ・子育て支援を充実すること	市民生活部(子育て支援課)	2.53	2.55	▲0.02	保育所については、定員増による待機児童解消を図ったが、入申込数の増に伴い、待機児童数等は横ばいで推移しているためだと考えられる。 また、利用の多い迫児童クラブでは、施設改修による定員増を行い児童の居場所を確保したものの、他の児童クラブ、子育て支援センターについては、前回調査時と同様の事業実施のためと考えられる。	老朽化している施設の建替えと併せた幼保一体施設を整備し保育・教育環境の整備を図るとともに、職員の研修等を実施し保育の質の向上を図る。 放課後子ども教室との連携を図りながら、受入年齢の拡大を図る。 在宅での子育て支援や多様化する保育需要の利用支援に対応するため、気軽に利用できる子育て支援センターを目指し、相談、支援体制の充実を図る。
	21	高齢者福祉の充実	・介護予防と生きがいづくりを推進すること ・高齢者福祉施設を整備すること ・高齢者の生活環境を整備すること	市民生活部(長寿介護課)	2.52	2.55	▲0.03	高齢者が地域社会の中で生活できる環境の整備として地域密着型特別養護老人ホーム等の整備を実施してきたが、更に多様化した高齢者のニーズに応えるための環境整備やサービスの質の確保向上が求められているものと考えられる。	介護予防のためにも、生きがいを持って社会参加ができ、高齢者福祉の増進を図りつつ、高齢者のニーズに応えた環境の整備に努める。
	22	障がい者福祉の充実	・障がい者福祉サービスを充実すること ・自立と就労、地域生活移行を支援すること ・家庭への支援と交流の場を確保すること	市民生活部(生活福祉課)	2.52	2.54	▲0.02	障害者総合支援法が施行され、地域社会における共生の実現が求められていることから、より地域に根差した施策が求められているものと考えられる。	障害福祉計画の見直しに合わせ、アンケート調査を実施し、きめ細かなニーズ把握を行いながら計画に反映させ実施する。
	23	消防・救急救助体制の充実	・消防団活動を充実すること ・消防施設・車両の整備や救命率向上のための高規格救急自動車を設置すること ・救急救命士の養成や応急手当の普及啓発を推進すること	消防本部(消防総務課、警防課)	2.81	2.83	▲0.02	消防行政に期待されるニーズが、拡大してきていることが要因として考えられる。	地域防災のリーダーとなる消防団員の加入促進と研修訓練の充実を図る。職員は、自然災害等へ対応するために効果的な各種訓練を実施する。
	24	風水害、地震などの自然災害対策	・防災訓練を実施すること ・自主防災組織を育成強化すること ・自然災害を未然に防止すること	総務部(防災課)	2.62	2.46	0.16	自主防災組織に対し、災害時に有効な活動を展開するための資機材を整備したことや、自主防災組織のリーダーとなる防災指導員を計画的に養成し、地域の実情に応じた防災訓練等を積極的に推進していることが要因と考えられる。	各自主防災組織に防災指導員を配置し、地域における強み、弱みを把握しながら、防災訓練等を通じ災害時における減災対策に取り組んでいく。
	25	防犯対策の推進	・防犯組織の育成及び関係団体と連携した防犯を推進すること ・防犯灯等の防犯施設を整備すること ・防犯教育、意識啓発を推進すること	市民生活部(市民生活課)	2.56	2.50	0.06	登米市全体として、犯罪事案認知件数が減少傾向にあること等が要因と考えられる。	関係団体との連携を図りながら、これまで以上の防犯意識の高揚を図る啓発活動を実施する。また、防犯灯の設置により犯罪の未然防止に努める。
	26	交通安全の推進	・交通安全関係団体との連携や交通安全パトロールを実施すること ・ガードレール等の交通安全施設を整備すること ・安全教育や意識啓発を推進すること	市民生活部(市民生活課)	2.75	2.78	▲0.03	平成25年において、登米市内で5名の死亡する交通事故が発生し、交通死亡事故多発緊急事態宣言が発せられた等、交通事故が増加傾向にあることが要因と考えられる。	関係団体との連携を図りながら、これまで以上の交通安全意識の高揚を図る啓発活動を実施し、危険箇所については、カーブミラー等の交通安全設備を整備する。
27	消費生活の安定と向上	・相談体制を充実すること ・消費者問題に関する啓発活動を充実すること	産業経済部(商工観光課)	2.54	2.49	0.05	平成20年度より消費生活相談員を3名任用しており、課内に相談窓口を設置し、常時、消費者トラブル問題の解決に向けた業務を遂行していることが市民へ浸透してきているものと考えられる。 また、市町村消費者行政活性化基金を活用し、各種事業を展開しており、市民生活の安全安心に寄与する業務であると、市民から認知されてきているものと考えられる。	相談内容は年々多岐にわたっているため、各種関係部署との連携強化が必要である。今後も、各種事業を展開していく中で、市民生活の安全安心を第一に相談業務を行っていく。 また、相談業務を広く市民へ周知するため、市内関係施設へのポスター掲示や市広報紙及びホームページなどを積極的に活用する。	
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	28	計画的な市街地の整備	・計画的な土地利用を推進すること ・都市計画を見直すこと ・魅力ある中心市街地の整備や再生を推進すること	建設部(住宅都市整備課)	2.36	2.28	0.08	都市計画マスタープラン策定後、都市計画区域の再編、東日本大震災の影響による土地利用の変化など、様々な要因が考えられるが、道路や公園などの都市基盤の整備を進めたことが、満足度の増加につながったものと考えられる。	土地利用の現状を踏まえ都市計画マスタープランの修正を行い、用途地域による土地利用の明確化を行う。
	29	居住環境の整備	・公営住宅を維持、整備すること ・生活道路や身近な公園、下水道を整備すること ・耐震診断を実施すること	建設部(道路課)	2.46	2.34	0.12	きめ細かな道整備事業により、生活道路の現道舗装を進めた結果が評価されたものと考えられる。	きめ細かな道整備事業を継続して実施する。
				建設部(住宅都市整備課)				公営住宅及び定住促進住宅の計画的な改修により住環境の整備を行ったことや、公園内施設及び樹木等の適切な管理により、利用しやすい公園を推進したことが、微増した要因と考えられる。	大規模な修繕は改修計画を策定し、年次計画により実施。また入居者からの要望による修繕については早急な対応を行う。 地域住民を対象とした公園等の利用(意向)調査を実施し、地域にあった事業施策を推進する。
建設部(下水道課)	震災後、被災家屋のリフォーム及び新築等を契機に、下水道へ接続されたケースが多くみられた。水洗化要望を叶える下水道管渠整備が済んでいた地区において、評価が高かったものと考えられる。	未整備地区については、市町村設置型の浄化槽整備にて、個別の要望にも応えられる体制整備を図る。							

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	30	良好な町並み、景観の形成 ・地域特性に応じた美しい景観の形成を推進すること ・環境美化を推進すること	建設部(住宅都市整備課)	2.54	2.48	0.06	景観計画の策定が行われたことにより、満足度が増加したと考えられる。	みやぎの明治村ゾーン(登米町)の景観地区指定により、景観計画を具体化する。
	31	道路の整備 ・市域の骨格を形成する幹線道路を整備すること ・アクセス道路を整備すること ・生活関連道路を整備すること	建設部(道路課)	2.52	2.38	0.14	きめ細かな道整備事業により、生活道路の現道舗装を進めた結果が評価されたものと考えられる。	国の補助金を有効に活用するとともに、きめ細かな道整備事業を継続して実施する。 また、道路整備の公平性・効率性を確保するため、路線評価に基づいた整備計画を策定する。
	32	バスなどの公共交通機関の充実 ・バス交通を充実すること ・鉄道利用の利便性を向上すること	企画部(市民活動支援課)	2.39	2.34	0.05	市民バスの運行経路及び運行時間など市民ニーズにできる限り沿い、JRや高速バスに接続し、気軽に乗れるワンコインバスとして運行してきたことが要因と考えられる。	公共交通を利用いただくためには、バスを知ってもらう必要がある。バスの基本的な情報を知ってもらうため、時刻表などの作成を行う。
			建設部(住宅都市整備課)				都市計画による交通施策で実施しているものがないことから、満足度の微増は他の要因によるものと考えられる。	都市交通マスタープランの公共交通計画に示す8つの施策を推進する。 ・主要な市街地エリアを連絡する幹線バス軸の形成 ・中心部と外縁部を連絡するバス軸の形成 ・田園・山間エリアにおける公共交通サービスの提供 ・域内移動の足となるバス交通の確保 ・仙台方面の高速バスの維持・拡充 ・JR東北本線、気仙沼線の維持・拡充 ・市の玄関口としての鉄道駅の整備 ・公共交通機関の連携強化(鉄道駅・高速バス停)
	33	地域情報化の推進 ・光通信など通信基盤を整備すること ・情報通信技術の向上を推進すること ・公共施設間情報ネットワークを構築すること	企画部(企画政策課)	2.55	2.45	0.10	平成22年度地域情報通信基盤整備事業による光ファイバー通信網の整備とともに、事業対象区域外においても、平成24年12月にサービス提供が開始され、市内全域において高速通信環境が向上したためと考えられる。	光ファイバー通信網環境のみならず、携帯通信等の不通地域についての通信環境の改善を図る。
教育委員会(生涯学習課)			生涯学習計画で情報教育推進並びに地域情報化の拠点は登米市視聴覚センターが担当し、ICT関連講習会等は、年々充実してきている。また、視聴覚センターのサーバーを活用し、生涯学習施設のみならず市内小中学校ホームページの配信が満足度増加の要因と考えられる。				生涯学習の中のICTが占める領域は、今後飛躍的に拡大していくものと推測され、こうした生涯学習の形態に対応すべく、研修会・講習会のより一層の充実を図る。 特に、ホームページ作成講習会は、総合型地域スポーツクラブのホームページ配信の実績があり、このような手法を用いて、今後とも生涯学習施設の情報発信に必要な手段の構築を図る。	
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	34	幼児教育の充実 ・教育内容を充実すること ・教育環境を整備・充実すること	教育委員会(学校教育課)	2.68	2.61	0.07	園行事の充実及び預かり保育の拡大のほか、幼稚園教育に対する理解が得られたと考えられる。	今後も引き続き、生活体験の充実、課題発見・課題解決能力育成のための遊び学習の実践、小学校との交流学习、教職員の研修の充実を図る。
	35	小・中学校教育の充実 ・教育内容を充実すること ・生徒指導を充実すること	教育委員会(学校教育課)	2.67	2.66	0.01	いじめ問題への対応等、課題事項がある一方で、学力向上に向けた各種事業の実施、志教育の実践、学習状況調査等の学習指導の取組が評価されたものと考えられる。	いじめ問題への対応、サイクル学習(登米っ子学習)、ワークショップ型校内研修の充実、調査票を使用した居心地のよい学級集団づくり、心のケアの充実、保幼小連携、小中一貫教育の推進、教職員の研修による資質向上を図る。
	36	小・中学校施設の整備 ・学校教育施設を適正に配置すること ・学校教育施設の耐震補強や大規模改造を推進すること	教育委員会(教育総務課)	2.75	2.59	0.16	東日本大震災により、ほとんどの学校施設に被害があったが、耐震補強工事が完了していたために、甚大な被害に至らない施設が多かったことが評価されたと考えられる。	今後も計画に基づく学校施設の整備に努め、児童生徒が安全に学習活動が行える環境の整備を図る。
	37	生涯学習の充実 ・生涯学習機会を充実すること ・生涯学習施設を整備・充実すること ・地域における人材を育成すること	教育委員会(生涯学習課)	2.64	2.60	0.04	各教育事務所を中軸として生涯学習の充実を目指しているが、市民ニーズの多様化に対応できたためだと考えられる。 また、市内すべてのコミュニティ組織への公民館等の指定管理導入が完了し、より自主的に活動できる生涯学習環境が整ったことが要因と考えられる。	市民の情報発信動向を的確に捉え、学習メニューの工夫を図る。

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)	
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	38	スポーツ・レクリエーションの振興	教育委員会(生涯学習課)	2.70	2.69	0.01	総合型地域スポーツクラブが市全域に設立され、全市民を対象にした活動として定着してきたためと考えられる。 さらに、東和総合運動場の震災復旧以外の独自の整備にも着目され、今後の活動に対する期待によるものと考えられる。	競技力向上のための施設とスポーツを実施するための環境の整備を図る。 また、市民の体力向上・競技力向上を主眼とした、体育協会及び総合型地域スポーツクラブの組織の拡充安定を図る。	
	39	青少年の健全育成	教育委員会(生涯学習課)	2.64	2.57	0.07	家庭、地域、学校等の連携の下に、地域社会で活動する機会の拡大を図りながら、地域ぐるみで青少年の「心の教育」に取り組むための環境づくりの支援事業及び青少年の活動の場として、文化施設・体育施設・公民館等の有効活用を図りながら、青少年組織の育成を支援したことによるものと考えられる。	家庭、地域、学校等の連携の下に、地域社会で活動する機会の拡大を図りながら、地域ぐるみで青少年の「心の教育」に取り組むための環境づくりの支援事業を推進する。 また、青少年の活動の場として、文化施設・体育施設・公民館等の有効活用を図りながら、青少年組織の育成を支援する。	
	40	地域間交流や国際交流の推進	・地域間交流を推進すること ・国際交流を推進すること ・青少年国際交流事業を実施すること	企画部(市民活動支援課)	2.59	2.56	0.03	国際交流協会が実施する日本語講座などの国際交流推進事業や外国人相談窓口設置により、市内在住外国人のニーズに対応し、国際化への理解が徐々に得られてきているものと考えられる。	国際交流協会が実施する国際交流推進事業を継続して支援するとともに、外国人支援団体との連携を深め、在住外国人への支援を図る。 また、国内外の姉妹都市間の交流を継続し、自治体間相互の連携を図る。
				教育委員会(生涯学習課)				主に市青少年海外派遣受入事業が定着化してきたためと考えられる。	海外派遣受入事業を継続し、広く国際交流を行える場を提供するとともに、関係団体との連携を支援する。
	41	文化・芸術活動の推進	・文化や芸術活動を推進すること ・文化や芸術施設を整備・充実すること	教育委員会(生涯学習課)	2.68	2.59	0.09	文化・芸術を鑑賞する機会や発表する機会を創出し、文化協会など文化団体が行う文化振興活動の支援によるものと考えられる。	より個々に興味をもたせるような文化振興支援を行い、広く文化振興を図る。
42	文化財等の保護・継承	・文化財等を保護・継承すること ・文化財保護施設を整備すること	教育委員会(生涯学習課)	2.74	2.66	0.08	博物館での展示等や広報活動により、市民に市内文化財を認識されたことや、震災等で被災した文化財保護施設等の整備が図られたことによるものと考えられる。	市民の文化財相談会等を設け古文書解読、刀剣相談会等を定期的開催する。	
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	43	市政への市民参加	・市民だれもがまちづくりに参加しやすい環境を整備すること	企画部(市民活動支援課)	2.50	2.42	0.08	まちづくりの基本理念や基本原則が盛り込まれた「登米市まちづくり基本条例」が制定され、市民主体のまちづくりへの関心が高まったと考えられる。	「登米市まちづくり基本条例」をリーフレットやシンポジウムなどを通じ、継続的に啓発することによって市民参加の向上を図る。
	44	市政に関する情報提供	・広報・広聴活動を充実すること ・情報公開を推進すること	総務部(市長公室、総務課)	2.70	2.61	0.09	広報活動の柱となる市広報紙「広報とめ」の紙面を平成24年12月からリニューアルし、内容の充実を図ったことや、震災時の情報発信に大きな役割を果たしたコミュニティFMの認知度が高まり、そこから発信される市政情報に触れる機会が増加したこと、平成25年4月からSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の一つである「フェイスブック」を活用した情報発信を開始したことによるものと考えられる。 また、情報公開制度においては、開示請求者が意図する情報を迅速かつ的確に把握するよう努めたことによるものと考えられる。	広報活動においては、広報紙、ホームページ、メール配信、コミュニティFMなど複数の情報提供手段を状況に応じて組み合わせ、より効果的でより伝達率の高い広報スタイルを構築していく。 広聴活動においては、関係部署との横の連携を強化し、市長へのメールや提言箱、パブリックコメントなどで寄せられた意見の検証や事務事業の改善などに的確かつ確実に取り組む。 保有すべき公文書が存在しないという事態が生じないよう、公文書の管理の徹底を図るため、各課等の文書取扱主任を通じ、関連する例規の規定を遵守するよう周知する。
	45	男女共同参画社会の推進	・男女共同参画の環境づくりを推進すること ・男女共同参画を推進すること	企画部(市民活動支援課)	2.62	2.56	0.06	「だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例」の制定に合わせ、DVを中心に研修会・講習会を実施したことや、フォーラムの開催により男女共同参画への関心が高まったためと考えられる。	第2次登米市男女共同参画基本計画・行動計画に定める事業の推進を図り、毎年、その実施状況について公表を行う。
	46	地域の自治・コミュニティ活動の推進	・地域コミュニティ活動を充実すること ・個性的で魅力的な地域づくりを支援すること	企画部(市民活動支援課)	2.66	2.63	0.03	地域づくり計画の策定が進み地域課題の発見、解決方策の検討等により、コミュニティ活動の充実が図られたためと考えられる。	地域住民が主体となって創る地域づくり計画の策定に向け、情報提供などの各種支援を行う。
教育委員会(生涯学習課)				公民館施設等の自主運営性に向けた地域コミュニティ再編により、組織として主体性をもった活動が根づいてきたためと考えられる。				市全域による公民館等の自主運営に向けた地域コミュニティ再編による組織の強化に取り組む。	
47	調和と均衡ある地域の発展	・地域ごとのまちづくりを推進すること ・地域審議会を充実すること	企画部(市民活動支援課)	2.58	2.52	0.06	地域の課題解決を図る活動について、市民と市が協働で取り組むことにより、地域の発展が図られたことが要因と考えられる。	地域づくり計画への策定支援や地域づくり活動に対しての事業支援を行う。 また、地域の創意工夫のもと、柔軟に使える一括交付金制度の構築を進める。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H23)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	48 行財政改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 行政組織を適正化すること 行政サービスを向上すること 効率的な財政運営を行うこと 	企画部(企画政策課)	2.47	2.38	0.09	第二次行財政改革大綱に基づき、事務事業の見直し、定員管理の適正化と機動的な組織体制の構築、公共施設の適正配置等の推進、経費の節減・合理化等を推進してきたことが評価されたと考えられる。	厳しい財政状況の中、時代の変化に的確かつ機敏に対応した行政サービスを提供するため、更なる事務事業の効率化や持続可能な財政基盤の確立など、不断の行政改革を進める。
			企画部(財政課)				第二次行財政改革大綱及び同実施計画に基づく職員の定員適正化や、施設の指定管理者制度導入の推進、更にホームページを活用した予算の執行状況の公表を定期的に行ってきたことなどが、評価されたと考えられる。	地方債残高の抑制のため、発行額を抑制しながら、引き続き繰上げ償還等の対策を実施して将来の負担を軽減させる。
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	49 市政運営での連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 市民、地域と行政の円滑な連携を推進すること 	企画部(企画政策課)	2.52	2.40	0.12	農業、健康、福祉、子育て、生活環境、文化スポーツなど、各分野で協働による取り組みが行われており、取組を通して、市民の理解が広がっているためだと考えられる。	市政への市民参加、男女共同参画社会の形成、コミュニティ活動の充実や地域ごとのまちづくりを推進することで、市民、地域と行政が連携することを意識した事業展開を図る。
			企画部(市民活動支援課)				地域づくり計画の策定支援のほか、市民や職員向け研修会の開催、まちづくり講演会等の開催によって連携が図られたと推察する。 また、市民活動への支援体制の整備が図られたことにより、市民活動等への関心が高まった要因と考えられる。	コミュニティ組織による地域づくり計画の策定支援や、市民活動に参加できる環境づくりと活動を支援するサポート体制の更なる充実を図る。

※1 廃食油や植物などの油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称

※2 農業を中心に農産物加工、貯蔵、流通販売、農機具・肥料製造などまで含めた産業としての農業

※3 農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

【登米市の暮らしやすさ】

問2 総合的に見て、登米市は暮らしやすいまちですか？

「2 まあまあ暮らしやすい」をあげている回答者が1,885人(回答者全体の58.5%)となり、回答者の約6割を占めている。これに「1 暮らしやすい」の611人(同19%)、「3 あまり暮らしやすいとはいえない」の514人(同約16%)が続いている。

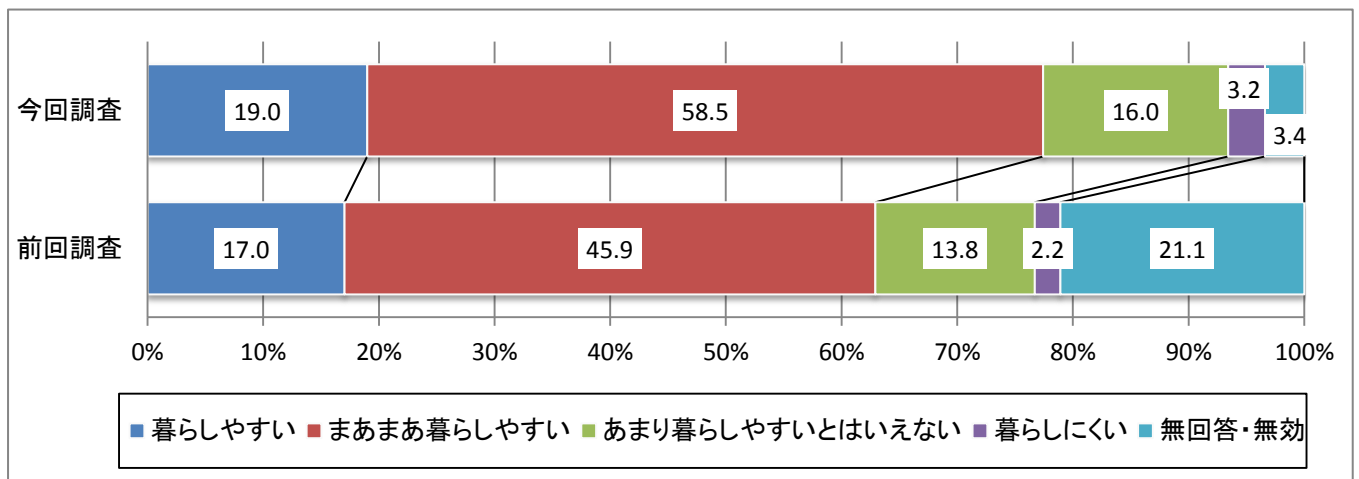
「1 暮らしやすい」と「2 まあまあ暮らしやすい」の回答者の割合は、77.5%となり約8割を占めた。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 暮らしやすい	<u>611</u>	<u>19.0</u>	<u>616</u>	<u>17.0</u>	▲ 5	2.0
2 まあまあ暮らしやすい	<u>1,885</u>	<u>58.5</u>	<u>1,661</u>	<u>45.9</u>	224	12.6
3 あまり暮らしやすいとはいえない	<u>514</u>	<u>16.0</u>	500	13.8	14	2.2
4 暮らしにくい	102	3.2	80	2.2	22	1.0
無回答・無効	108	3.4	<u>763</u>	<u>21.1</u>	▲ 655	▲ 17.7
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0
点数	2.97		2.98		▲ 0.01	

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※表中の「点数」は、下式により算出している。

$$\text{点数} = \frac{\text{「暮らしやすい」(票数)} \times 4 \text{点} + \text{「まあまあ暮らしやすい」(票数)} \times 3 \text{点} + \text{「あまり暮らしやすいとはいえない」(票数)} \times 2 \text{点} + \text{「暮らしにくい」(票数)} \times 1 \text{点}}{\text{回答総数(票数)} \quad \text{※無回答、無効を除く}}$$



【定住意向】

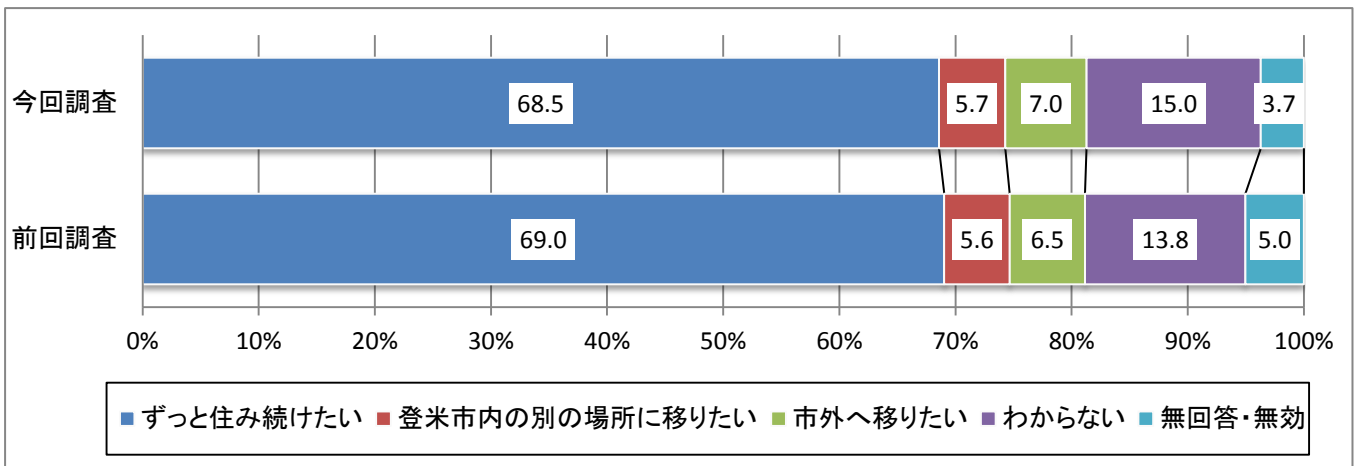
問3 あなたは、今後も現在お住まいの場所に住み続けたいですか？

「1 ずっと住み続けたい」をあげている回答者が2,207人(回答者全体の約69%)を占めており、これに「4 わからない」の483人(同15%)、「3 市外へ移りたい」の226人(同7%)、「2 登米市内の別の場所へ移りたい」の184人(同約6%)が続いている。

前回の調査と比べると、「4 わからない」をあげている回答者が1.2ポイント増加し、「1 ずっと住み続けたい」をあげている回答者が0.5ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 ずっと住み続けたい	<u>2,207</u>	<u>68.5</u>	<u>2,499</u>	<u>69.0</u>	▲ 292.0	▲ 0.5
2 登米市内の別の場所に移りたい	184	5.7	204	5.6	▲ 20.0	0.1
3 市外へ移りたい	<u>226</u>	<u>7.0</u>	<u>235</u>	<u>6.5</u>	▲ 9.0	0.5
4 わからない	<u>483</u>	<u>15.0</u>	<u>500</u>	<u>13.8</u>	▲ 17.0	1.2
無回答・無効	120	3.7	182	5.0	▲ 62.0	▲ 1.3
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400.0	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



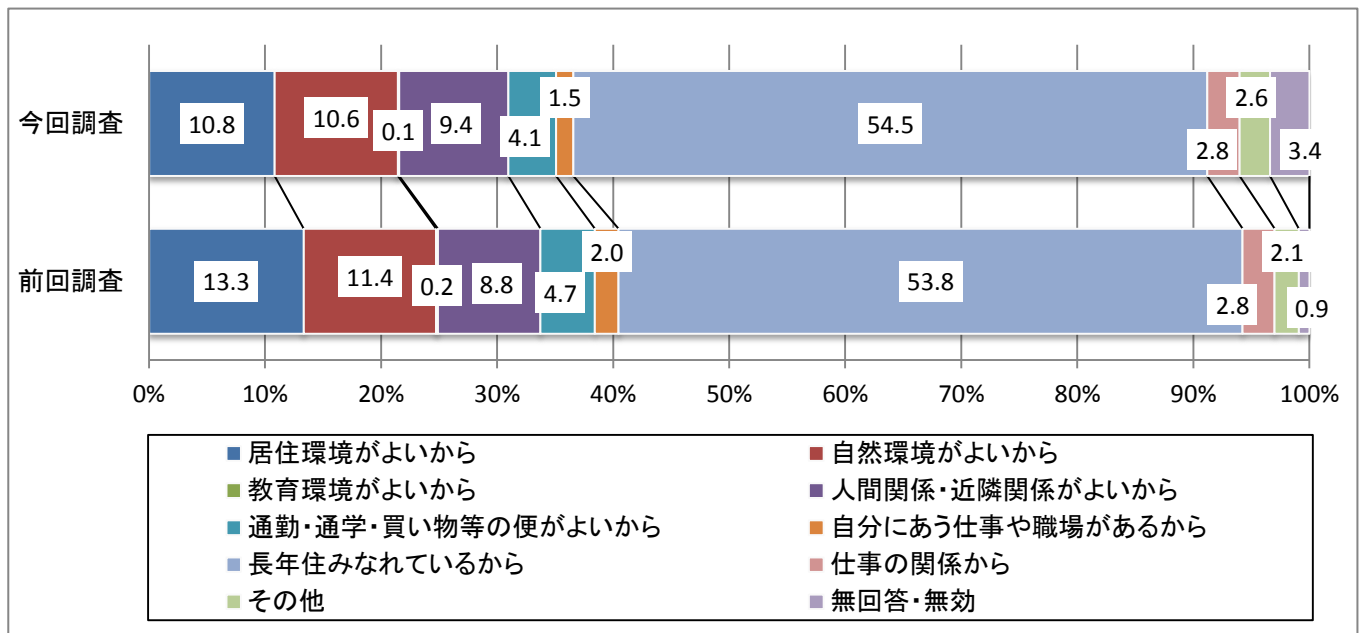
【定住したい理由】

問4 問3で「1 ずっと住み続けたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

「7 長年住みなれているから」をあげている回答者が1,203人(回答者全体の約55%)と最も多く、これに「1 居住環境がよいから」の239人(同約11%)、「2 自然環境がよいから」の235人(同約11%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「7 長年住み慣れているから」をあげている回答者が0.7ポイント増加し、「1 居住環境が良いから」をあげている回答者が2.5ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 居住環境がよいから	239	10.8	333	13.3	▲ 94	▲ 2.5
2 自然環境がよいから	235	10.6	285	11.4	▲ 50	▲ 0.8
3 教育環境がよいから	3	0.1	4	0.2	▲ 1	▲ 0.1
4 人間関係・近隣関係がよいから	207	9.4	221	8.8	▲ 14	0.6
5 通勤・通学・買い物等の便がよいから	91	4.1	117	4.7	▲ 26	▲ 0.6
6 自分にあう仕事や職場があるから	34	1.5	51	2.0	▲ 17	▲ 0.5
7 長年住みなれているから	1,203	54.5	1,344	53.8	▲ 141	0.7
8 仕事の関係から	62	2.8	69	2.8	▲ 7	0.0
9 その他	58	2.6	52	2.1	6	0.5
無回答・無効	75	3.4	23	0.9	52	2.5
計	2,207	100.0	2,499	100.0	▲ 292	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



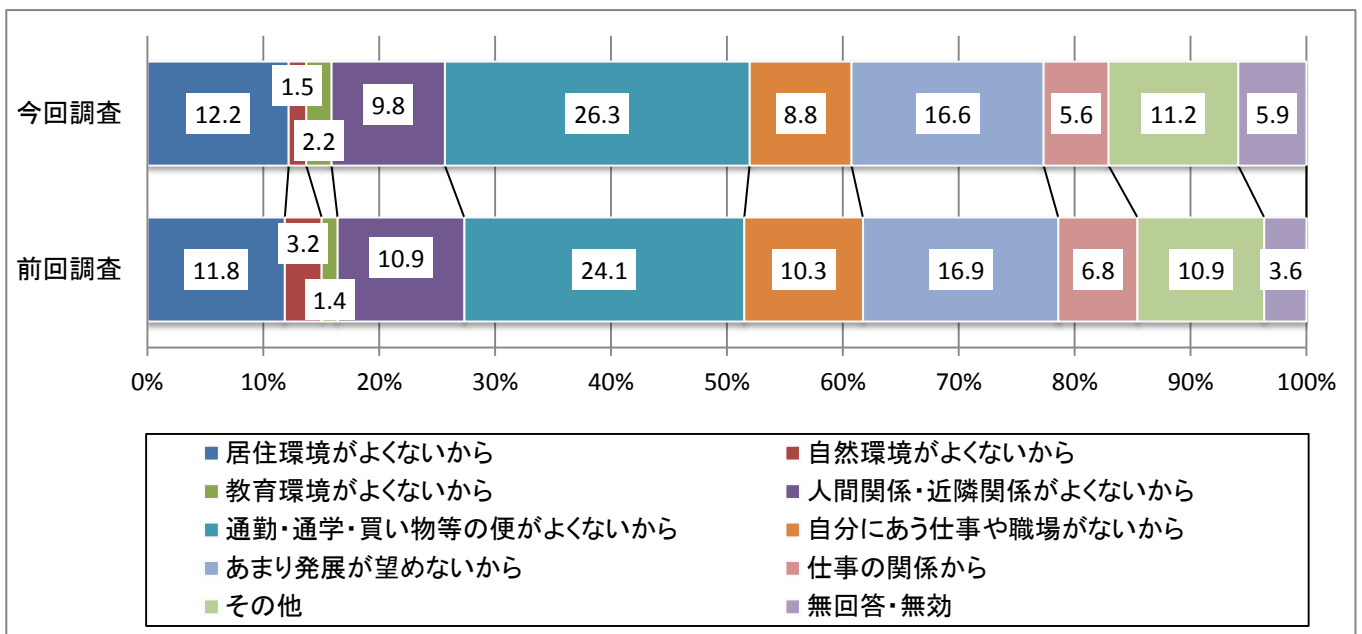
【転居したい理由】

問5 問3で「2 登米市内の別の場所に移りたい」「3 市外へ移りたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

「5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから」をあげている回答者が、108人(回答者全体の約26%)で最も多く、これに「7 あまり発展が望めないから」の68人(同約17%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから」をあげている回答者の割合が2.2ポイント増加し、「2 自然環境がよくないから」をあげている回答者の割合が1.7ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 居住環境がよくないから	50	12.2	52	11.8	▲ 2	0.4
2 自然環境がよくないから	6	1.5	14	3.2	▲ 8	▲ 1.7
3 教育環境がよくないから	9	2.2	6	1.4	3	0.8
4 人間関係・近隣関係がよくないから	40	9.8	48	10.9	▲ 8	▲ 1.1
5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから	108	26.3	106	24.1	2	2.2
6 自分にあう仕事や職場がないから	36	8.8	45	10.3	▲ 9	▲ 1.5
7 あまり発展が望めないから	68	16.6	74	16.9	▲ 6	▲ 0.3
8 仕事の関係から	23	5.6	30	6.8	▲ 7	▲ 1.2
9 その他	46	11.2	48	10.9	▲ 2	0.3
無回答・無効	24	5.9	16	3.6	8	2.3
計	410	100.0	439	100.0	▲ 29	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



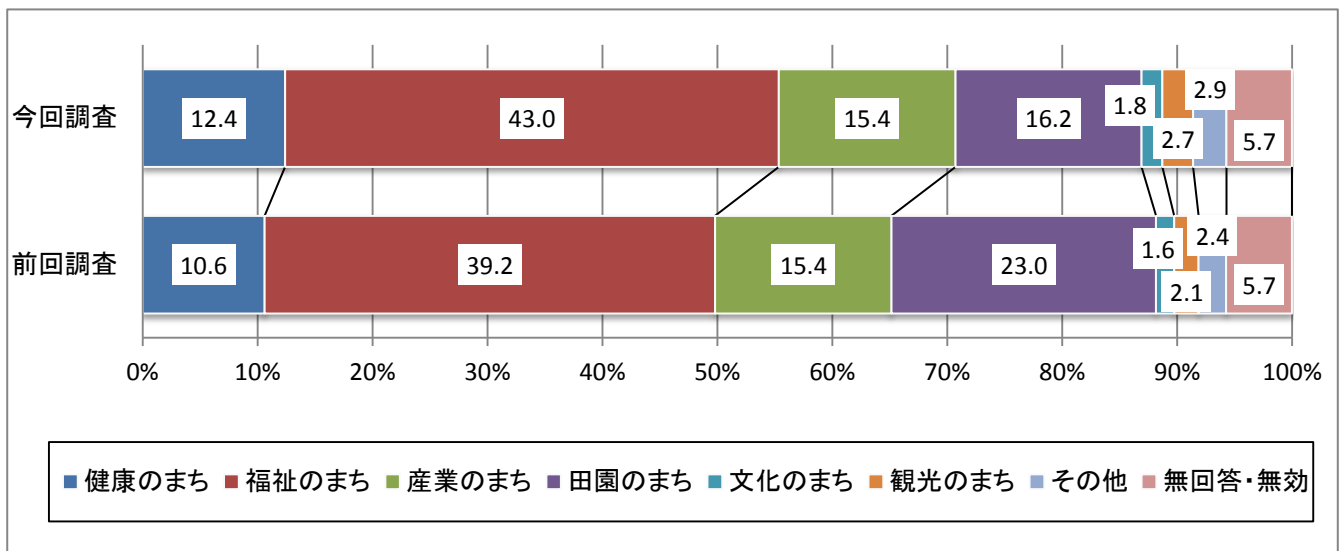
【登米市の将来イメージ】

問6 あなたは登米市の将来イメージとして次のどれが最も望ましいと思いますか？

「2 福祉のまち」をあげている回答者が1,385人(回答者全体の43%)で最も多く、これに「4 田園のまち」の522人(同約16%)、「3 産業のまち」の495人(同約15%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「2 福祉のまち」をあげている回答者の割合が3.8ポイント増加し、「4 田園のまち」をあげている回答者の割合が6.8ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 健康のまち	398	12.4	384	10.6	14.0	1.8
2 福祉のまち	<u>1,385</u>	<u>43.0</u>	<u>1,419</u>	<u>39.2</u>	▲ 34.0	3.8
3 産業のまち	<u>495</u>	<u>15.4</u>	<u>556</u>	<u>15.4</u>	▲ 61.0	0.0
4 田園のまち	<u>522</u>	<u>16.2</u>	<u>833</u>	<u>23.0</u>	▲ 311.0	▲ 6.8
5 文化のまち	58	1.8	57	1.6	1.0	0.2
6 観光のまち	87	2.7	77	2.1	10.0	0.6
7 その他	92	2.9	87	2.4	5.0	0.5
無回答・無効	183	5.7	207	5.7	▲ 24.0	0.0
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400.0	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



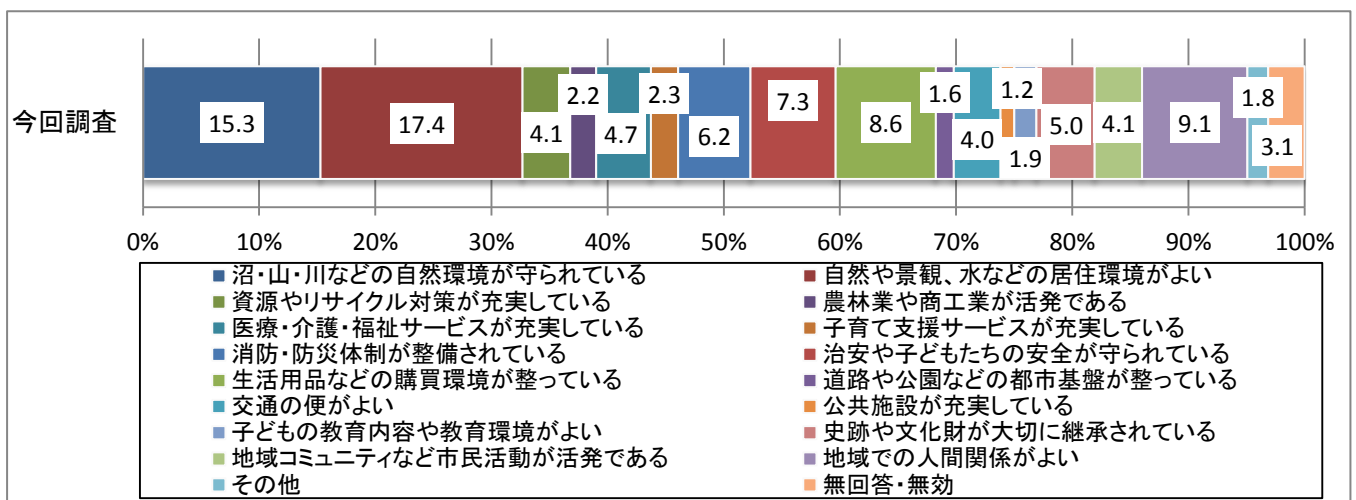
【登米市の強み(誇れるもの、他の市町村に負けていないと思うもの) ※3項目まで選択】

問7 登米市の強みは何だと思いますか？

「2 自然や景観、水などの居住環境がよい」をあげている回答者が1,294人(回答者全体の約17%)で最も多く、これに「1 沼・山・川などの自然環境が守られている」の1,139人(同約15%)、「16 地域での人間関係がよい」の676人(同約9%)が続いている。
今回の調査で新たに設問した。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 沼・山・川などの自然環境が守られている	<u>1,139</u>	<u>15.3</u>	—	—	—	—
2 自然や景観、水などの居住環境がよい	<u>1,294</u>	<u>17.4</u>	—	—	—	—
3 資源やリサイクル対策が充実している	307	4.1	—	—	—	—
4 農林業や商工業が活発である	166	2.2	—	—	—	—
5 医療・介護・福祉サービスが充実している	350	4.7	—	—	—	—
6 子育て支援サービスが充実している	175	2.3	—	—	—	—
7 消防・防災体制が整備されている	465	6.2	—	—	—	—
8 治安や子どもたちの安全が守られている	546	7.3	—	—	—	—
9 生活用品などの購買環境が整っている	641	8.6	—	—	—	—
10 道路や公園などの都市基盤が整っている	116	1.6	—	—	—	—
11 交通の便がよい	300	4.0	—	—	—	—
12 公共施設が充実している	88	1.2	—	—	—	—
13 子どもの教育内容や教育環境がよい	141	1.9	—	—	—	—
14 史跡や文化財が大切に継承されている	375	5.0	—	—	—	—
15 地域コミュニティなど市民活動が活発である	303	4.1	—	—	—	—
16 地域での人間関係がよい	<u>676</u>	<u>9.1</u>	—	—	—	—
17 その他	132	1.8	—	—	—	—
無回答・無効	234	3.1	—	—	—	—
計	7,448	100.0	—	—	—	—

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



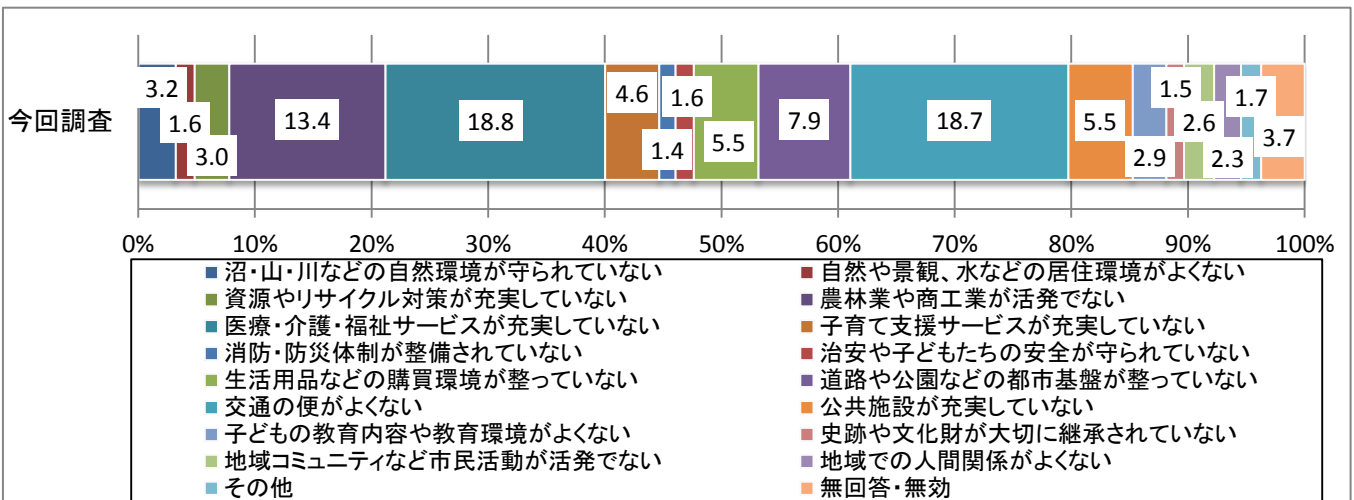
【登米市の弱み(まちの問題点、他の市町村より劣っていると思うもの) ※3項目まで選択】

問8 登米市の弱みは何だと思いますか？

「5 医療・介護・福祉サービスが充実していない」をあげている回答者が1,421人(回答者全体の約19%)で最も多いが、これに「11 交通の便がよくない」の1,411人(同約19%)がほぼ同じ水準で続いている。次いで、「4 農林業者商工業が活発でない」の1,010人(同約13%)となっている。
今回の調査で新たに設問した。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 沼・山・川などの自然環境が守られていない	241	3.2	—	—	—	—
2 自然や景観、水などの居住環境がよくない	123	1.6	—	—	—	—
3 資源やリサイクル対策が充実していない	224	3.0	—	—	—	—
4 農林業や商工業が活発でない	<u>1,010</u>	<u>13.4</u>	—	—	—	—
5 医療・介護・福祉サービスが充実していない	<u>1,421</u>	<u>18.8</u>	—	—	—	—
6 子育て支援サービスが充実していない	350	4.6	—	—	—	—
7 消防・防災体制が整備されていない	105	1.4	—	—	—	—
8 治安や子どもたちの安全が守られていない	118	1.6	—	—	—	—
9 生活用品などの購買環境が整っていない	418	5.5	—	—	—	—
10 道路や公園などの都市基盤が整っていない	595	7.9	—	—	—	—
11 交通の便がよくない	<u>1,411</u>	<u>18.7</u>	—	—	—	—
12 公共施設が充実していない	415	5.5	—	—	—	—
13 子どもの教育内容や教育環境がよくない	218	2.9	—	—	—	—
14 史跡や文化財が大切に継承されていない	114	1.5	—	—	—	—
15 地域コミュニティなど市民活動が活発でない	194	2.6	—	—	—	—
16 地域での人間関係がよくない	175	2.3	—	—	—	—
17 その他	131	1.7	—	—	—	—
無回答・無効	281	3.7	—	—	—	—
計	7,544	100.0	—	—	—	—

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



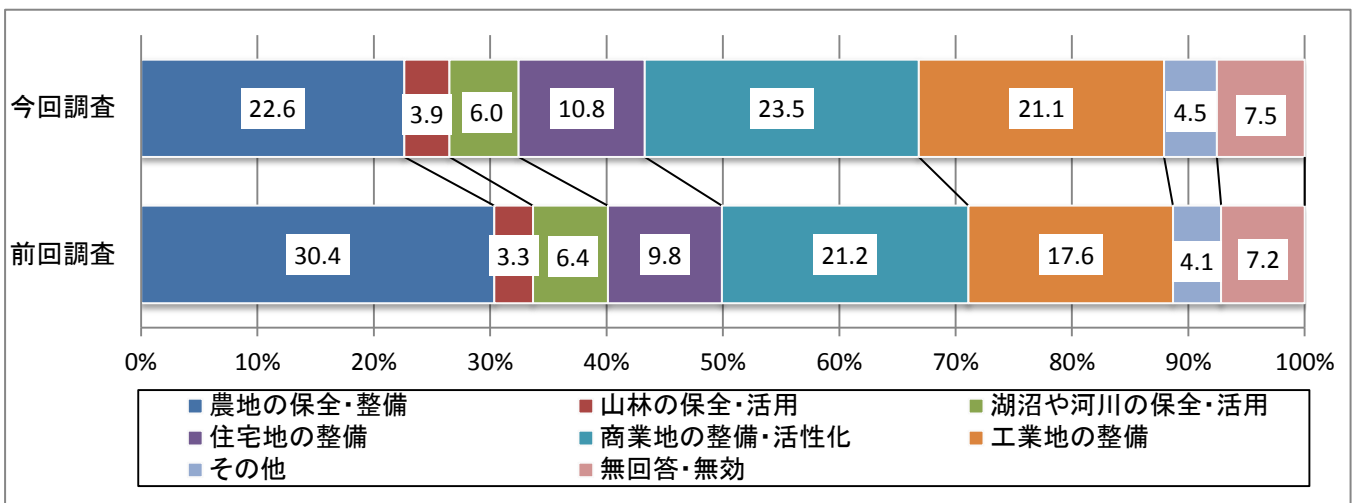
【地域発展に向けた重点施策】

問9 登米市の発展に向けて、今後、何を最も重点的に進めていくべきだと思いますか？

「5 商業地の整備・活性化」をあげている回答者が758人(回答者全体の約24%)で最も多く、これに「1 農地の保全・整備」の728人(同約23%)、「6 工業地の整備」の679人(同約21%)が続いている。前回の調査と比べると、「5 商業地の整備・活性化」をあげている回答者の割合が2.3ポイント増加し、「1 農地の保全・整備」を上回った。「1 農地の保全・整備」をあげている回答者の割合は7.8ポイント減少した。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 農地の保全・整備	<u>728</u>	<u>22.6</u>	<u>1,099</u>	<u>30.4</u>	▲ 371	▲ 7.8
2 山林の保全・活用	125	3.9	120	3.3	5	0.6
3 湖沼や河川の保全・活用	192	6.0	233	6.4	▲ 41	▲ 0.4
4 住宅地の整備	349	10.8	355	9.8	▲ 6	1.0
5 商業地の整備・活性化	<u>758</u>	<u>23.5</u>	<u>767</u>	<u>21.2</u>	▲ 9	2.3
6 工業地の整備	<u>679</u>	<u>21.1</u>	<u>636</u>	<u>17.6</u>	43	3.5
7 その他	146	4.5	150	4.1	▲ 4	0.4
無回答・無効	243	7.5	260	7.2	▲ 17	0.3
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【都市整備や市街地開発の方向】

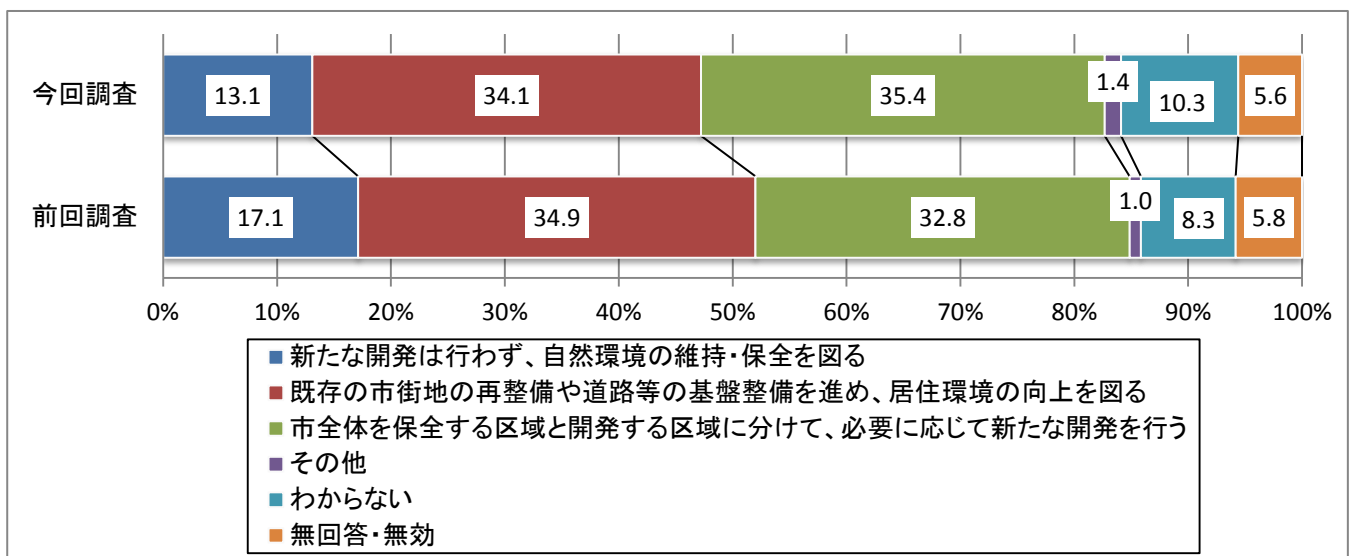
問10 今後の都市整備や市街地の開発は、どのように考えていくべきだと思いますか？

「3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う」をあげている回答者が、1,141人(回答者全体の約35%)と最も多く、次いで「2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る」が1,099人(同約34%)となっている。

前回の調査と比べると、「3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う」をあげている回答者の割合が2.6ポイント増加し、「2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る」を上回った。「1 新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る」をあげる回答者の割合は、4ポイント下回った。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る	422	13.1	620	17.1	▲ 198	▲ 4.0
2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る	1,099	34.1	1,263	34.9	▲ 164	▲ 0.8
3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う	1,141	35.4	1,189	32.8	▲ 48	2.6
4 その他	46	1.4	36	1.0	10	0.4
5 わからない	332	10.3	301	8.3	31	2.0
無回答・無効	180	5.6	211	5.8	▲ 31	▲ 0.2
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【農地のあり方】

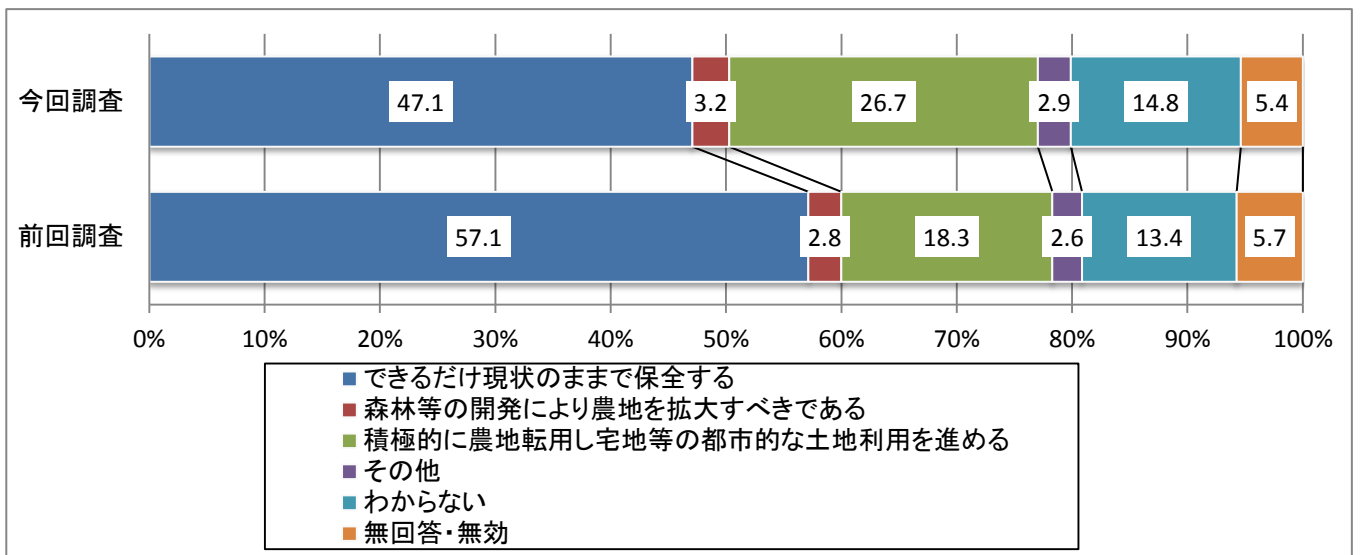
問11 将来の農地(田・畑)のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が1,516人(回答者全体の約47%)と回答者の約半数を占めている。これに「3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」の861人(同約27%)が続いており、「2 森林等の開発により農地を拡大すべきである」は103人(同約3%)にとどまっている。

前回の調査と比べると、「3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」をあげている回答者の割合が8.4ポイント増加し、「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者の割合は、10ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 できるだけ現状のままで保全する	<u>1,516</u>	<u>47.1</u>	<u>2,068</u>	<u>57.1</u>	▲ 552	▲ 10.0
2 森林等の開発により農地を拡大すべきである	103	3.2	103	2.8	0	0.4
3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める	<u>861</u>	<u>26.7</u>	<u>663</u>	<u>18.3</u>	198	8.4
4 その他	92	2.9	93	2.6	▲ 1	0.3
5 わからない	<u>475</u>	<u>14.8</u>	<u>485</u>	<u>13.4</u>	▲ 10	1.4
無回答・無効	173	5.4	208	5.7	▲ 35	▲ 0.3
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



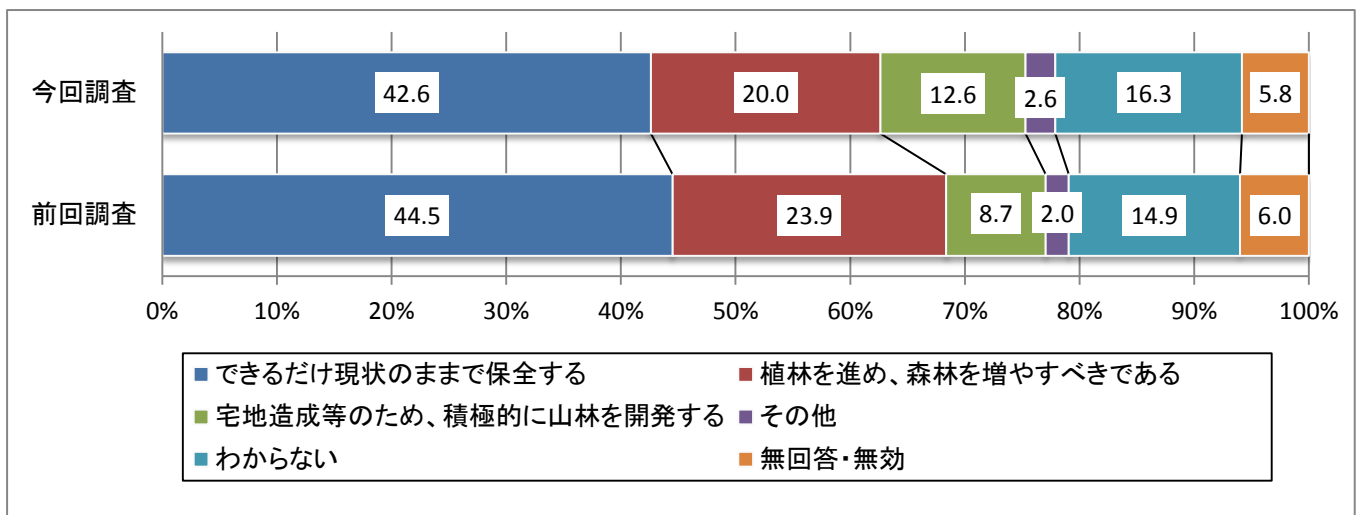
【山林のあり方】

問12 将来の山林のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「1 できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が1,372人(回答者全体の約43%)で最も多く、これに「2 植林を進め、森林を増やすべきである」の645人(同20%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「3 宅地造成等のため、積極的に山林を開発する」をあげている回答者の割合が3.9ポイント増加し、「2 植林を進め、森林を増やすべきである」をあげている回答者の割合は3.9ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 できるだけ現状のままで保全する	<u>1,372</u>	<u>42.6</u>	<u>1,611</u>	<u>44.5</u>	▲ 239	▲ 1.9
2 植林を進め、森林を増やすべきである	<u>645</u>	<u>20.0</u>	<u>864</u>	<u>23.9</u>	▲ 219	▲ 3.9
3 宅地造成等のため、積極的に山林を開発する	407	12.6	314	8.7	93	3.9
4 その他	84	2.6	73	2.0	11	0.6
5 わからない	<u>524</u>	<u>16.3</u>	<u>541</u>	<u>14.9</u>	▲ 17	1.4
無回答・無効	188	5.8	217	6.0	▲ 29	▲ 0.2
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



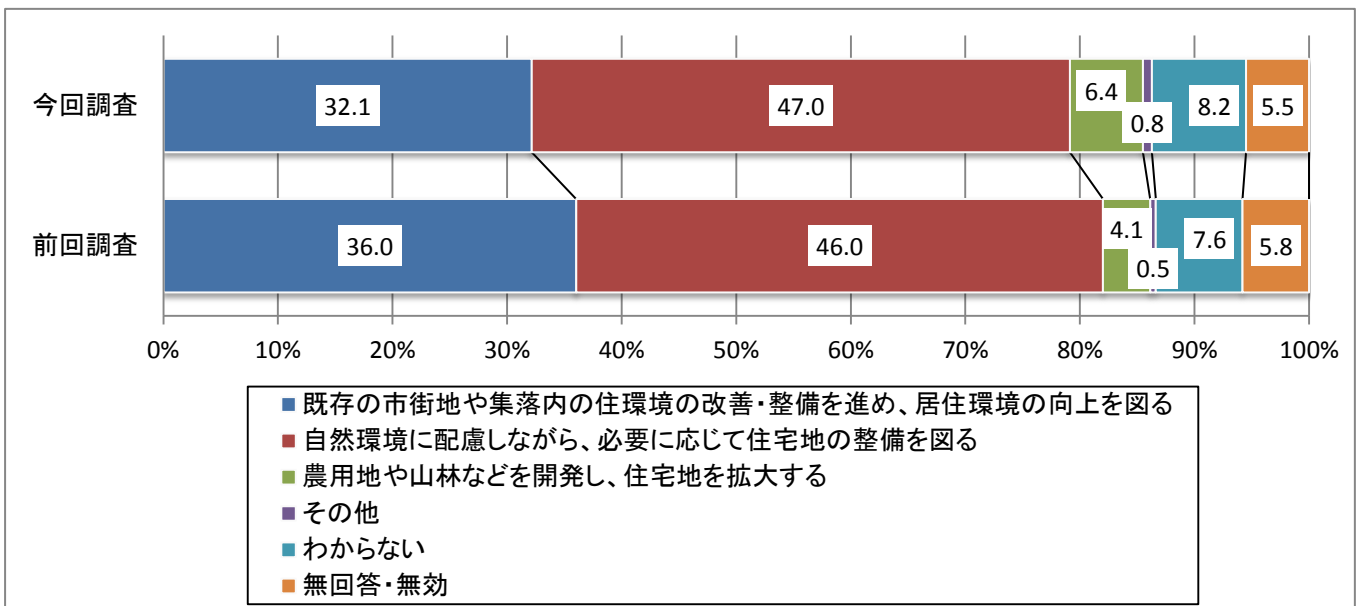
【住宅地のあり方】

問13 将来の住宅地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「2 自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る」をあげている回答者が1,513人（回答者全体の47%）と最も多く、これに「1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の整備を図る」の1,035人（同約32%）が続いている。
 前回の調査と比べると、「3 農用地や山林を開発し、住宅地を拡大する」を挙げている回答者の割合が2.3ポイント増加し、「1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の整備を図る」をあげている回答者の割合は3.9ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の向上を図る	<u>1,035</u>	<u>32.1</u>	<u>1,304</u>	<u>36.0</u>	▲ 269	▲ 3.9
2 自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る	<u>1,513</u>	<u>47.0</u>	<u>1,665</u>	<u>46.0</u>	▲ 152	1.0
3 農用地や山林などを開発し、住宅地を拡大する	205	6.4	149	4.1	56	2.3
4 その他	25	0.8	18	0.5	7	0.3
5 わからない	<u>265</u>	<u>8.2</u>	<u>274</u>	<u>7.6</u>	▲ 9	0.6
無回答・無効	177	5.5	210	5.8	▲ 33	▲ 0.3
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



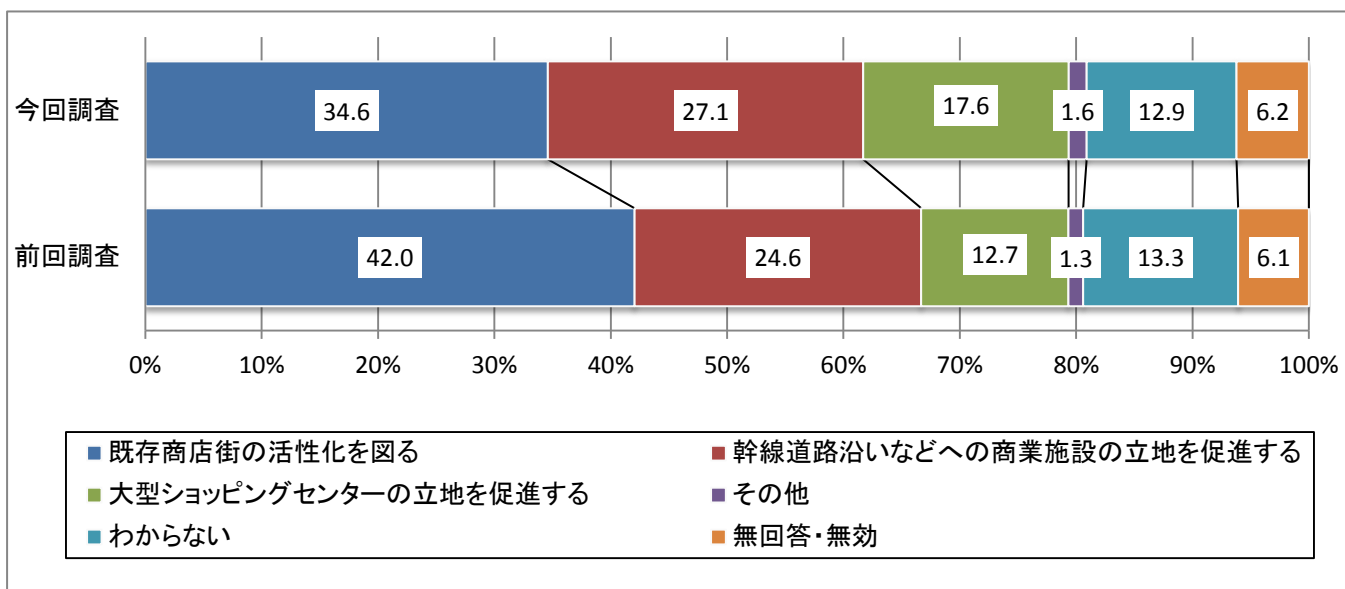
【商業地のあり方】

問14 将来の商業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「1 既存商店街の活性化を図る」をあげている回答者が1,114人(回答者全体の約35%)で最も多く、これに「2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する」の873人(同約27%)が続いている。前回の調査と比べると、「3 大型ショッピングセンターの立地を促進する」をあげている回答者の割合が5ポイント増加し、「1 既存商店街の活性化を図る」をあげている回答者の割合は7.4ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存商店街の活性化を図る	<u>1,114</u>	<u>34.6</u>	<u>1,522</u>	<u>42.0</u>	▲ 408	▲ 7.4
2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する	<u>873</u>	<u>27.1</u>	<u>892</u>	<u>24.6</u>	▲ 19	2.5
3 大型ショッピングセンターの立地を促進する	<u>568</u>	<u>17.6</u>	458	12.7	110	5.0
4 その他	50	1.6	46	1.3	4	0.3
5 わからない	415	12.9	<u>482</u>	<u>13.3</u>	▲ 67	▲ 0.4
無回答・無効	200	6.2	220	6.1	▲ 20	0.1
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【工業地のあり方】

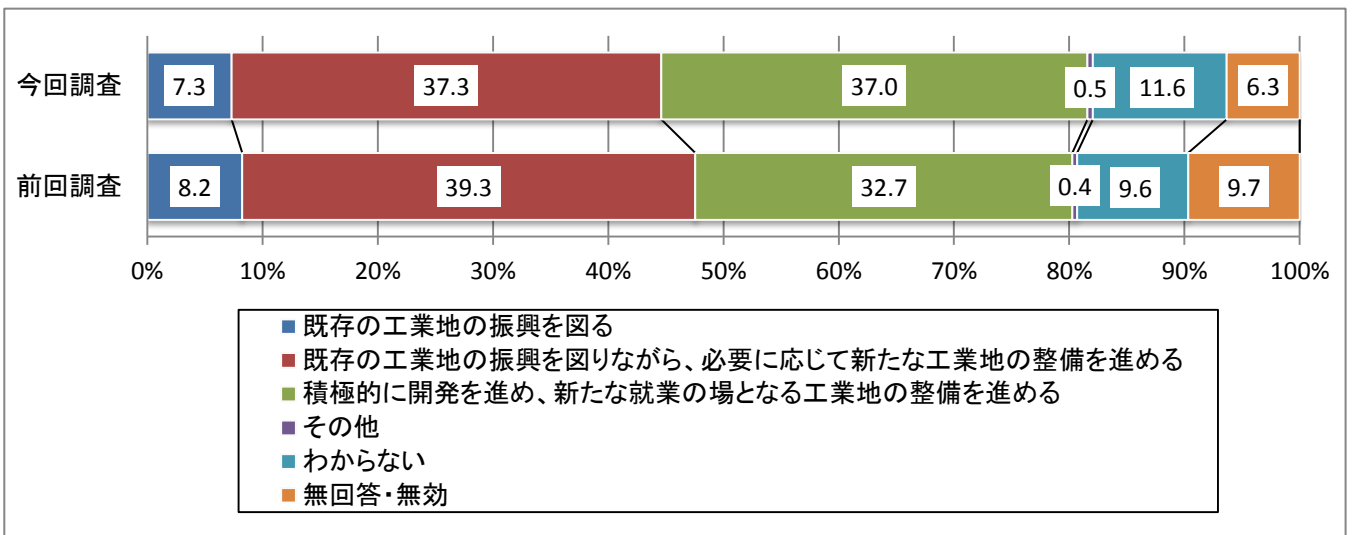
問15 将来の工業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」をあげている回答者が1,201人(回答者全体の約37%)で最も多いが、「3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める」の1,191人(同約37%)がほぼ同じ水準で続いている。

前回の調査と比べると、「3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める」をあげている回答者の割合が4.3ポイント増加し、「2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」をあげている回答者の割合は2ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 既存の工業地の振興を図る	235	7.3	298	8.2	▲ 63	▲ 0.9
2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める	<u>1,201</u>	<u>37.3</u>	<u>1,423</u>	<u>39.3</u>	▲ 222	▲ 2.0
3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める	<u>1,191</u>	<u>37.0</u>	<u>1,185</u>	<u>32.7</u>	6	4.3
4 その他	15	0.5	15	0.4	0	0.1
5 わからない	<u>374</u>	<u>11.6</u>	349	9.6	25	2.0
無回答・無効	<u>204</u>	6.3	<u>350</u>	<u>9.7</u>	▲ 146	▲ 3.4
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

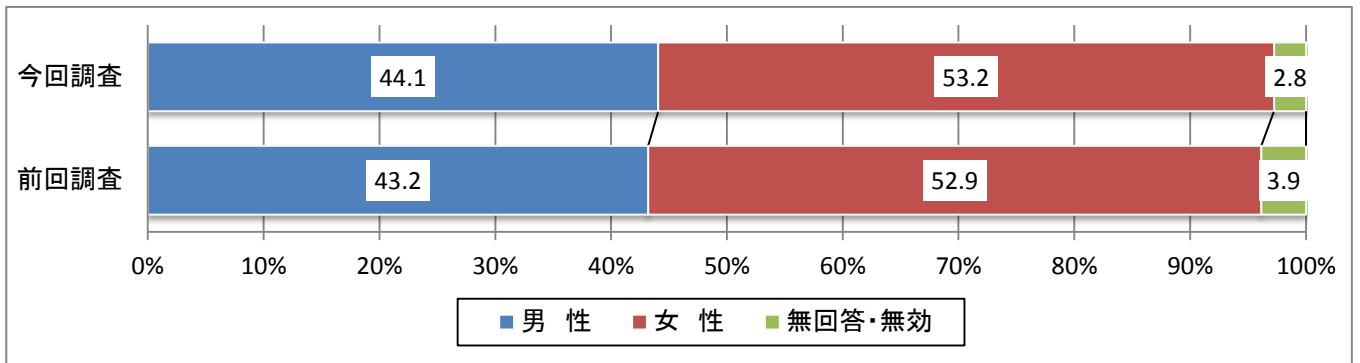


【性別】

問16 あなたの性別は？

「1 男性」の回答者が1,419人(回答者全体の約44%)、「2 女性」の回答者が1,712人(同約53%)で、女性の回答者が男性の回答者よりも293人多くなっている。
 前回の調査と比べると、男性の回答割合が0.9ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 男性	1,419	44.1	1,564	43.2	▲ 145	0.9
2 女性	1,712	53.2	1,916	52.9	▲ 204	0.2
無回答・無効	89	2.8	140	3.9	▲ 51	▲ 1.1
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0



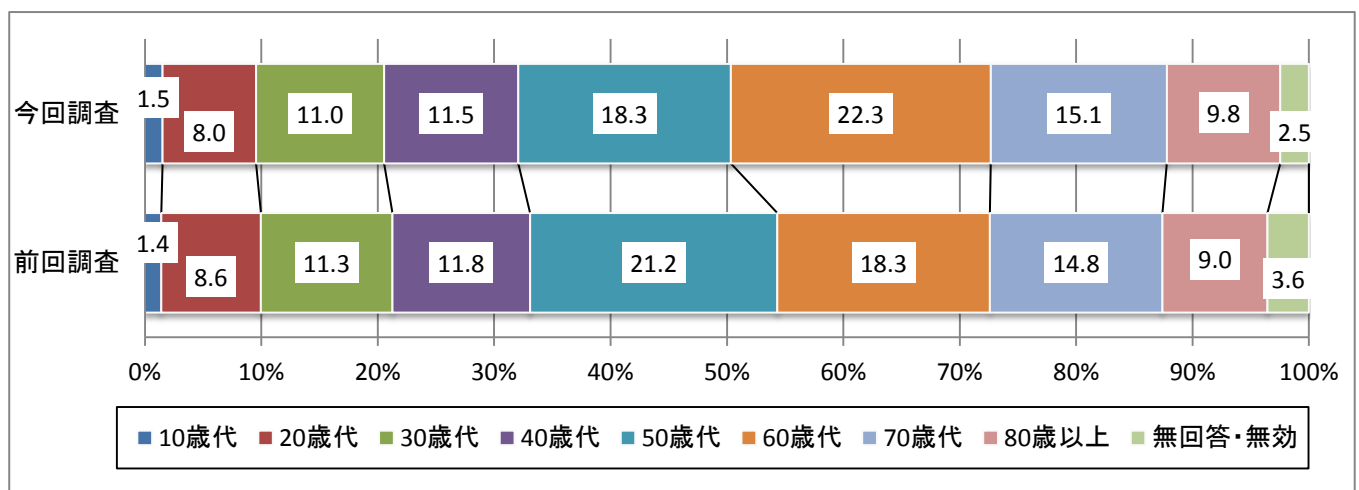
【年代】

問17 あなたの年齢は？

「60歳代」の回答者が719人(回答者全体の約22%)で最も多く、これに「50歳代」の588人(同約18%)、「70歳代」の487人(同約15%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「60歳代」の回答者の割合が4ポイント増加し、「50歳代」の回答者の割合が2.9ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 10歳代	49	1.5	51	1.4	▲ 2	0.1
2 20歳代	259	8.0	310	8.6	▲ 51	▲ 0.6
3 30歳代	354	11.0	409	11.3	▲ 55	▲ 0.3
4 40歳代	371	11.5	428	11.8	▲ 57	▲ 0.3
5 50歳代	<u>588</u>	<u>18.3</u>	<u>769</u>	<u>21.2</u>	▲ 181	▲ 2.9
6 60歳代	<u>719</u>	<u>22.3</u>	<u>661</u>	<u>18.3</u>	58	4.0
7 70歳代	<u>487</u>	<u>15.1</u>	<u>537</u>	<u>14.8</u>	▲ 50	0.3
8 80歳以上	314	9.8	326	9.0	▲ 12	0.8
無回答・無効	79	2.5	129	3.6	▲ 50	▲ 1.1
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



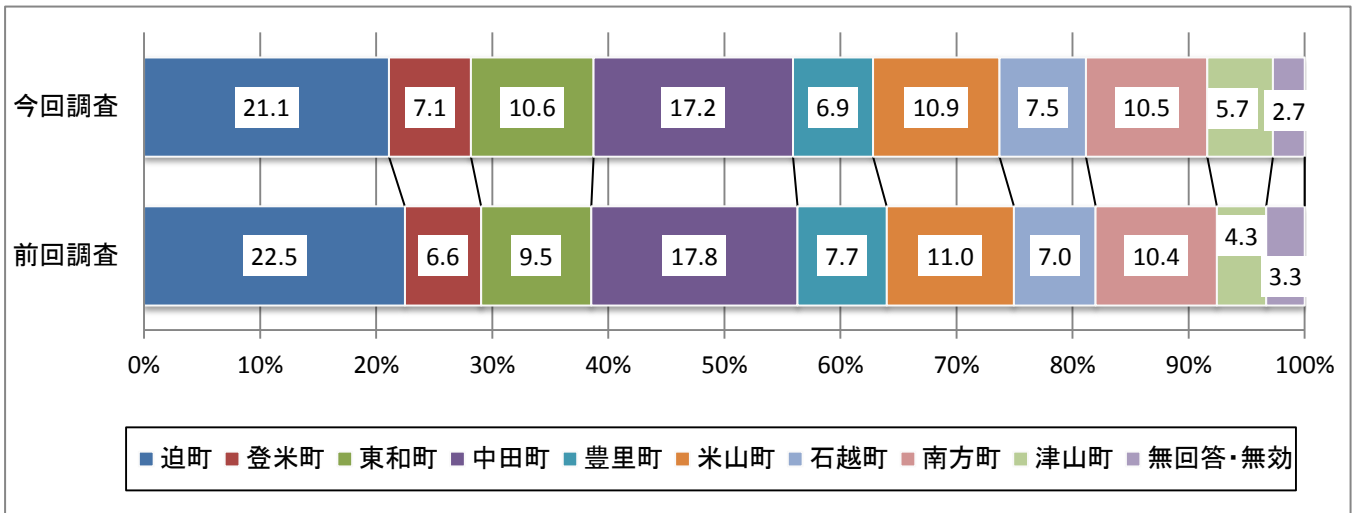
【居住地】

問18 あなたの住んでいる地区は？

「1 迫町」の回答者が679人(回答者全体の約21%)で最も多く、これに「4 中田町」の553人(同約17%)、「6 米山町」の351人(同約11%)が続いている。(旧町域の人口分布比率に基づき調査票を配付しており、おおむね配布比率に相当した回収結果となっている)
 前回の調査と比べると、「9 津山町」の回答者の割合が1.4ポイント増加し、「1 迫町」の回答者の割合が1.4ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 迫町	<u>679</u>	<u>21.1</u>	<u>813</u>	<u>22.5</u>	▲ 134	▲ 1.4
2 登米町	228	7.1	238	6.6	▲ 10	0.5
3 東和町	340	10.6	344	9.5	▲ 4	1.1
4 中田町	<u>553</u>	<u>17.2</u>	<u>643</u>	<u>17.8</u>	▲ 90	▲ 0.6
5 豊里町	222	6.9	278	7.7	▲ 56	▲ 0.8
6 米山町	<u>351</u>	<u>10.9</u>	<u>397</u>	<u>11.0</u>	▲ 46	▲ 0.1
7 石越町	240	7.5	255	7.0	▲ 15	0.5
8 南方町	337	10.5	378	10.4	▲ 41	0.1
9 津山町	182	5.7	154	4.3	28	1.4
無回答・無効	88	2.7	120	3.3	▲ 32	▲ 0.6
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【職業】

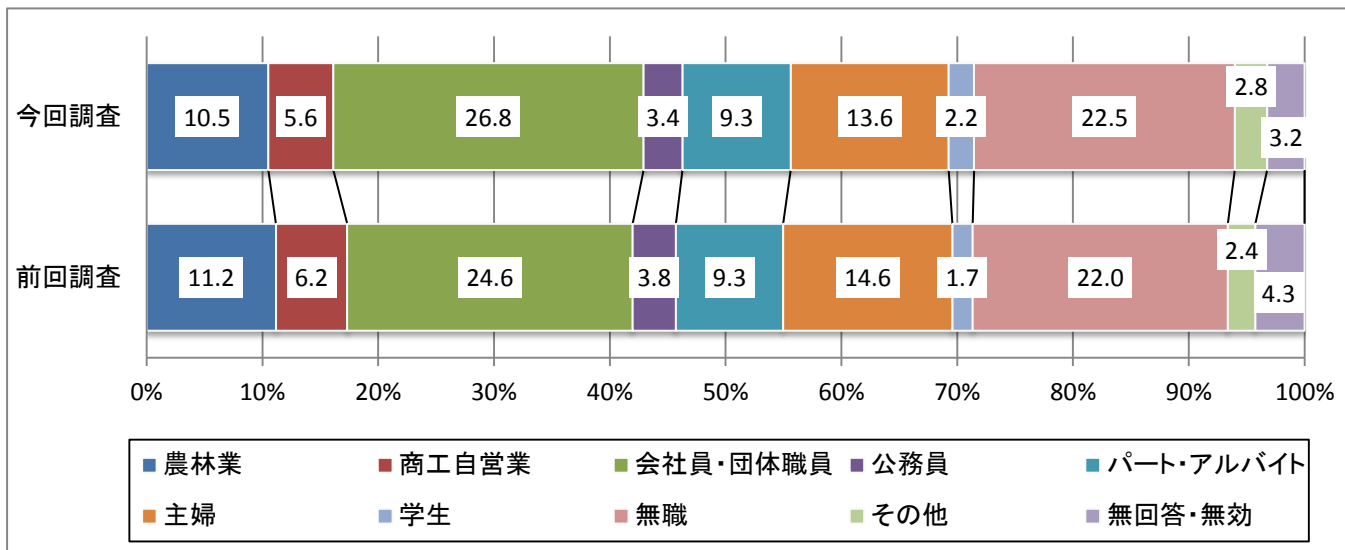
問19 あなたの職業は？

「3 会社員・団体職員」の回答者が863人(回答者全体の約27%)で最も多く、これに「8 無職」の725人(同22%)、「6 主婦(夫)」の439人(同約14%)が続いている。

前回の調査と比べると、「3 会社員・団体職員」の回答者の割合が2.2ポイント増加し、「6 主婦(夫)」の回答者の割合が1.0ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 農林業	338	10.5	404	11.2	▲ 66	▲ 0.7
2 商工自営業	181	5.6	223	6.2	▲ 42	▲ 0.5
3 会社員・団体職員	<u>863</u>	<u>26.8</u>	<u>892</u>	<u>24.6</u>	▲ 29	2.2
4 公務員	108	3.4	136	3.8	▲ 28	▲ 0.4
5 パート・アルバイト	301	9.3	335	9.3	▲ 34	0.1
6 主婦(夫)	<u>439</u>	<u>13.6</u>	<u>529</u>	<u>14.6</u>	▲ 90	▲ 1.0
7 学生	71	2.2	63	1.7	8	0.5
8 無職	<u>725</u>	<u>22.5</u>	<u>798</u>	<u>22.0</u>	▲ 73	0.5
9 その他	90	2.8	86	2.4	4	0.4
無回答・無効	104	3.2	154	4.3	▲ 50	▲ 1.0
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【通勤・通学先】

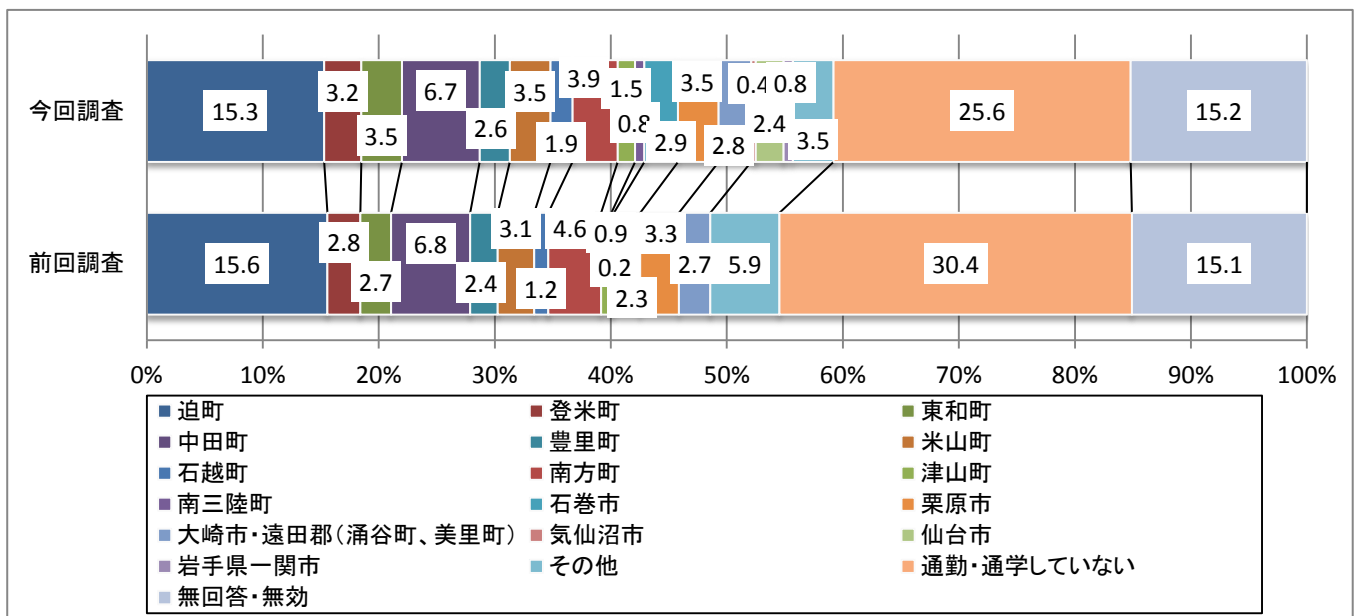
問20 あなたの通勤・通学先はどこですか？

「18 通勤・通学していない」をあげている回答者が824人(回答者全体の約26%)で最も多く、これに「1 迫町」の493人(同約15%)、「4 中田町」の216人(同約7%)が続いている。
 前回の調査と比べると、「3 東和町」をあげる回答者の割合が0.8ポイント増加し、「18 通勤・通学していない」をあげる回答者の割合が4.8ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 迫町	493	15.3	564	15.6	▲ 71	▲ 0.3
2 登米町	103	3.2	103	2.8	0	0.4
3 東和町	114	3.5	96	2.7	18	0.8
4 中田町	216	6.7	246	6.8	▲ 30	▲ 0.1
5 豊里町	83	2.6	86	2.4	▲ 3	0.2
6 米山町	113	3.5	114	3.1	▲ 1	0.4
7 石越町	60	1.9	44	1.2	16	0.7
8 南方町	126	3.9	165	4.6	▲ 39	▲ 0.7
9 津山町	47	1.5	32	0.9	15	0.6
10 南三陸町	27	0.8	8	0.2	19	0.6
11 石巻市	93	2.9	82	2.3	11	0.6
12 栗原市	113	3.5	121	3.3	▲ 8	0.2
13 大崎市・遠田郡(涌谷町、美里町)	89	2.8	98	2.7	▲ 9	0.1
14 気仙沼市	12	0.4	—	—	—	—
15 仙台市	77	2.4	—	—	—	—
16 岩手県一関市	27	0.8	—	—	—	—
17 その他	112	3.5	215	5.9	▲ 103	▲ 2.4
18 通勤・通学していない	824	25.6	1,100	30.4	▲ 276	▲ 4.8
無回答・無効	491	15.2	546	15.1	▲ 55	0.1
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

※回答番号14、15、16は、今回の調査で新たに設定した項目のため、前回の項目と比較するデータはない。



【居住経験】

問21 あなたの居住経験は？

「1 登米市に生まれてからずっと住んでいる」をあげている回答者が1,765人(回答者全体の約55%)と、回答者全体の半分以上を占めている。これに「2 登米市出身だが市外での居住経験がある」の838人(同約26%)が続いている。

前回の調査と比べると、「2 登米市出身だが市外での居住経験がある」をあげる回答者の割合が、2.6ポイント増加している。

	今回調査		前回(平成23年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 登米市に生まれてからずっと住んでいる	<u>1,765</u>	<u>54.8</u>	<u>1,945</u>	<u>53.7</u>	▲ 180	1.1
2 登米市出身だが市外での居住経験がある	<u>838</u>	<u>26.0</u>	<u>846</u>	<u>23.4</u>	▲ 8	2.6
3 県内の他市町村から転入してきた	<u>376</u>	<u>11.7</u>	<u>408</u>	<u>11.3</u>	▲ 32	0.4
4 県外から転入してきた	158	4.9	180	5.0	▲ 22	▲ 0.1
無回答・無効	83	2.6	241	6.7	▲ 158	▲ 4.1
計	3,220	100.0	3,620	100.0	▲ 400	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。

